岐阜大学大学院
教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）
【教育実践開発コース】

学 校 教 育 臨 床 実 習
特別支援学校教育臨床実習
の手引き

2020.4

岐阜大学教職大学院

目　　次

第１部　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校教育臨床実習」の全体像

1　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校教育臨床実習」の意義・目的　・・・・・・・　Ｐ１

2　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校教育臨床実習」の指導方針　・・・・・・・・　Ｐ１

3　「学校教育臨床実習」の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２

4　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校教育臨床実習」の位置づけ　・・・・・・・・　Ｐ５

5　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校教育臨床実習」の指導体制　・・・・・・・・　Ｐ６

6　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校教育臨床実習」の評価　・・・・・・・・・・　Ｐ９

7　「基礎実習」における単位認定について（※現職院生のみ対象）　・・・・・・・・・　P11

第２部　「学校教育臨床実習」の内容

1　ＳＭ院生対象の「学校教育臨床実習」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P13

1　「基礎実習」（４単位，120 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P13

2　「教育臨床実習Ａ」（３単位，90 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P22

3　「授業開発実習Ａ」（３単位，90 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P33

2　現職院生対象の「学校教育臨床実習」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P44

1　「基礎実習」（４単位，120 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P44

2　「教育臨床実習Ｂ」（３単位，90 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P44

3　「授業開発実習Ｂ」（３単位，90 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P54

第３部　「特別支援学校教育臨床実習」の内容

1　「特別支援学校教育臨床実習」の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P63

2　「特別支援学校教育臨床実習」の評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P64

3　「特別支援学校教育臨床実習」の展開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P69

1　「基礎実習」（４単位，120 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P69

2　「教育臨床実習Ａ」（３単位，90 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P70

3　「授業開発実習Ａ」（３単位，90 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P72

4　「教育臨床実習Ｂ」（３単位，90 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P76

5　「授業開発実習Ｂ」（３単位，90 時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P78

4　「特別支援学校教育臨床実習」で使用する様式　・・・・・・・・・・・・・・・・・　P80

第１部　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校臨床実習」の全体像

1　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校臨床実習」の意義・目的

本専攻の「学校教育臨床実習・特別支援学校臨床実習」は，学部段階での基礎的・基本的な実践力を養成する「教育実習」科目群の上に，さらに応用力のある高度な実践力を養成するために開講される「教育実習」科目をいう。「学校教育臨床実習・特別支援学校臨床実習」は，そうした学部段階の養成プログラムや本専攻における他の学修プログラムを踏まえて，授業開発・教育臨床など，多面的な能力開発を行いながら，より高度な実践力を養成することをねらいとしている。

学卒院生（ストレートマスター：以後ＳＭ院生とする）は，学校現場で即戦力として活躍するために，講義を中心にして学んだ理論を，実習における開発的な実践と統合させ，教員として必要な実践的な資質能力を形成することを目的とする。

現職院生は，学校現場でスクールリーダーとして活躍するために，学校現場の実態や自らの実践を深く省察して新たな課題を見いだし，課題解決を目指して先進的かつ独創的な実践を開発する力を高めることを目的としている。

2　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校臨床実習」の指導方針

教育実践に関わる課題を発見・探究・解決する教師の課題探究能力を「学校教育臨床実習・特別支援学校臨床実習」により形成する。ここでは，「学校教育現場に根ざす」という立場から，客観的な観察者ではなく学校教育現場に入り込んで，自らの関与と責任を伴うアクションリサーチを重視するものである。以上のコンセプトに基づき，以下の方針に従って指導にあたる。

（ア）教育実践への積極関与と責任
- 教員免許を持つ自律(立)した教員として教育実践に携わる。
- 教育実践場面では責任を持って指導にあたる。また年間を通して同一学校で実習する。
- 一定期間の指導（校務分掌体験，数日間の学級経営，単元の授業実践等）を担当する。

（イ）教員としての実践を通した学習
- 教員として思考し行動することを通して，教育課題に気づき析出する力量を育成する。
- 教育課題の分析と解決方略を立案し，実践結果を評価することを重視する。
- ポートフォリオ型の「学校教育臨床実習記録及び報告書」を用いた記録と省察を行う。

（ウ）協働による学習と態度の育成
- ＳＭ院生は職員室等に居場所を設置し，教員集団の一員として終日活動する。
- 協働の場として，大学院生とメンターティーチャー（実習校教員）とのコホートを形成し，協働することで実習への意欲と責任感を高め，充実を図る。

（エ）省察による評価と態度の育成
- 大学院生，メンターティーチャー（実習校教員），指導者（大学教員）が計画的・継続的に「スクールミーティング（日常的連携指導）」を実施するなど，実習校と大学が連携して指導にあたる。
- 学校教育臨床実習（特別支援学校臨床実習）報告書やスクールミーティングでの資料（ポートフォリオ等）を蓄積し，実習を俯瞰的･客観的に評価･省察し，改善につなげる。

3　「学校教育臨床実習」の概要

1　「学校教育臨床実習」における領域，実習の特性，養成すべき力量

(1)　ＳＭ院生対象の「学校教育臨床実習」

ＳＭ院生対象の「学校教育臨床実習」は，「基礎実習，教育臨床実習Ａ，授業開発臨床実習Ａ」の３つの領域で構成され，学校組織の一員としての教師の役割（校務分掌等）を，自ら責任をもって遂行し，新任教員に必要な実践力を伸ばすとともに，自律的に学校教育を推進する能力を高める。

領域	実習の特性	養成すべき力量
基礎実習	インターン実習 メンタリング・シャドーイング実習	・自他の授業や教育活動を，視点をもって観察・分析する力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力 ・自らの課題解決に向けての改善策を端的にまとめて表現する力 ・教育活動や組織編制，校務分掌等を，体系的に捉えて理解する力 ・児童生徒を共感的に理解したり，客観的に判断したりする力
教育臨床実習Ａ	実習開発実践実習	・生徒指導・教育相談について，指導組織を含めて理解する力 ・道徳教育について，授業の指導法を含めて理解する力 ・特別活動について，指導組織を含めて理解する力 ・学校カウンセリングについて，チーム会議を含めて理解する力
授業開発臨床実習Ａ	メンタリング・シャドーイング実習 ヒアリング実習 開発実践実習	・新任教員に必要な能力開発のために，育てたい資質・能力や学力を明確にする視点や，授業改善のあり方を身につける。 (1)実習校の教育課程を理解し，カリキュラムを実践する力 (2)メンター等の授業を省察し，教材観，子ども観，指導観，評価観等を理解する力 (3)単元のねらいを明確にして，単元構想図，指導計画，展開案等を作成する力 (4)一単元の授業を実践し，更なる課題を発見する力

(2)　現職院生対象の「学校教育臨床実習」

現職院生対象の「学校教育臨床実習」は，「基礎実習，教育臨床実習Ｂ，授業開発臨床実習Ｂ」の３つの領域で構成され，ミドルリーダーとしての教師の役割（校務分掌やカリキュラム・マネジメント）を，ビジョンと責任をもって遂行し，ミドルリーダーに期待される実践力を伸ばすとともに，開発的に学校教育を推進する能力を高める。

領域	実習の特性	養成すべき力量
基礎実習	インターン実習 メンタリング・シャドーイング実習	・自他の授業や教育活動を，視点をもって観察・分析する力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力 ・自らの課題解決に向けての改善策を端的にまとめて表現する力 ・教育活動や組織編制，校務分掌等を，体系的に捉えて理解する力 ・児童生徒を共感的に理解したり，客観的に判断したりする力

教育臨床 実習Ｂ	開発実践実習	・生徒指導・教育相談の組織運営と客観的な児童生徒情報を活用した指導をする力 ・道徳教育の改善・充実および道徳授業の指導法の開発・実践をする力 ・特別活動に関する諸会議の組織・運営をする力 ・学校カウンセリングに関するチーム会議等の組織・運営をする力
授業開発 臨床実習Ｂ	ヒアリング実習 開発実践実習	・ミドルリーダーに必要な能力開発のために，求められる資質・能力を育てる授業開発や，校内研究改善のあり方を身に付ける。 (1) 自校の教育課程を考察し，カリキュラム・マネジメントを推進する力 (2) 自他の授業を省察し，教材観，子ども観，指導観，評価観等を確立し，発信する力 (3) 先取的・開発的な視点から，新たな単元構想や指導過程等を立案し，授業を通して提案する力 (4) ファシリテーターとして校内研究を企画・運営する力

２　「学校教育臨床実習」の具体的な内容

(1)　ＳＭ院生対象の「学校教育臨床実習」

ＳＭ院生は「基礎実習」を１年次後期（原則金曜日のみ）に実施する。「教育臨床実習Ａ」，「授業開発臨床実習Ａ」は，２年次前期に（原則金曜日以外の平日）に実施する。

領域	単位数	実習時期	時間	実習内容
基礎 実習	4 単位	1 年次 10 月～3 月	120 時間	・県内外の学校（小，中，高）の研究会等への参観実習を通して，教員としての職務内容や，必要な資質・力量を理解する。 ・メンター教員の授業や生徒指導を中心とした教育活動等を，視点を明確にして観察・分析する。 ・職員会，指導部会，教科部会，学年会等の参与観察を通して，教育課程における校務分掌体系と，学校組織の一員として教師の役割を理解する。
教育臨床 実習Ａ	3 単位	2 年次 4 月～6 月	90 時間	・生徒指導・教育相談の実践の理解・分析・考察を行い，指導組織を理解する。 ・道徳教育の実践の理解・分析・考察を行い，道徳授業の指導法を理解する。 ・特別活動の実践の理解・分析・考察を行い，指導組織を理解する。 ・学校カウンセリングの実践の理解・分析・考察を行い，チーム会議を理解する。

授業開発臨床実習Ａ	3 単位	2 年次 6 月～9 月	90 時間	・明確な課題をもち，メンター等の授業を参観し，記録を分析するとともに考察をまとめる。 ・指導計画を俯瞰的に理解する視点をもって教材研究に取り組み，一単元の授業を立案する。 ・一単元の授業を実践し，客観的に分析，評価することで，更なる課題を明確にする。 ・授業実践を通して，指導と評価の一体化など，高度な授業実践力を身に付ける。

(2)　現職院生対象の「学校教育臨床実習」

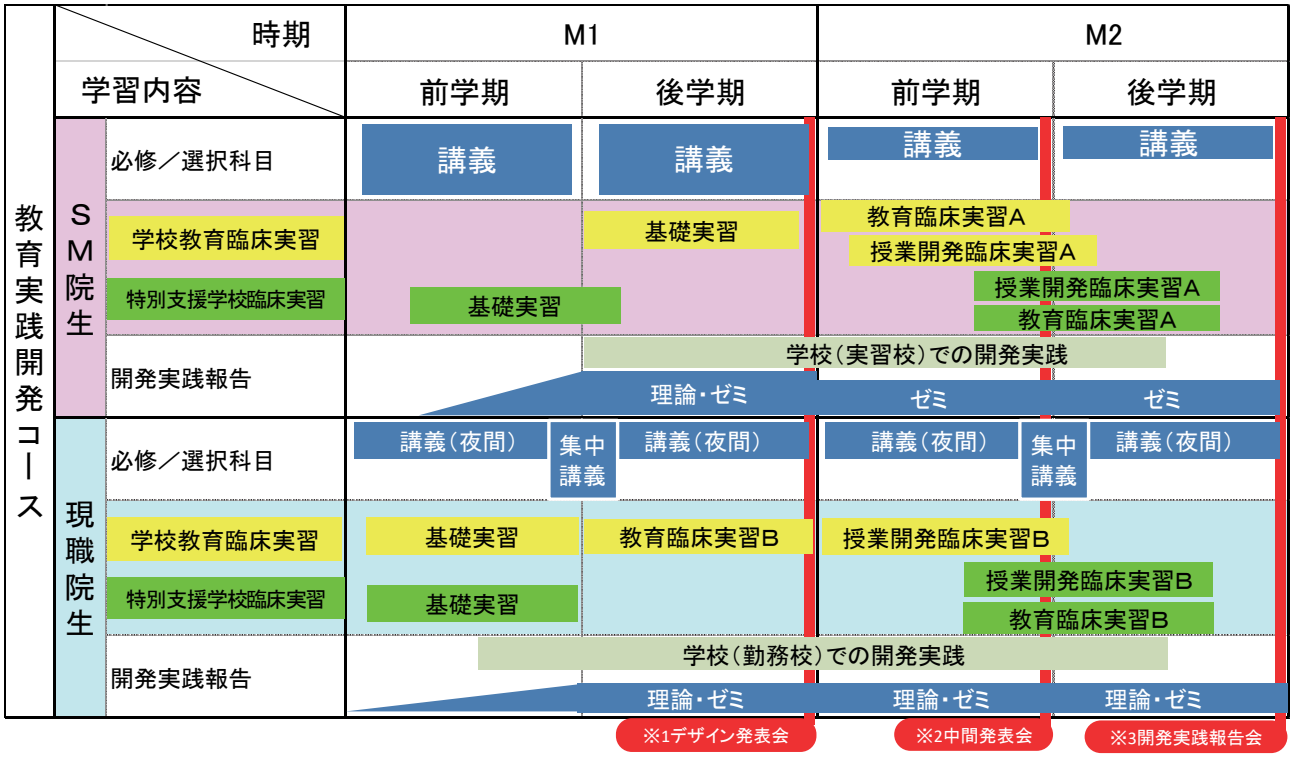
現職院生は「基礎実習」を１年次前期（原則金曜日）に実施する。ただし「基礎実習」は，みなし認定により免除となる場合がある。「教育臨床実習Ｂ」は１年次後期に実施する。また「授業開発臨床実習Ｂ」は２年次の前期に実施する。ただし，長期履修学生制度を活用する場合はこの限りではない。

領域	単位数	実習時期	時間	実習内容
基礎実習 ※みなし認定による免除あり	4 単位	1 年次 5 月～9 月	120 時間	・県内外の学校（小，中，高）の研究会等への参観実習を通して，教員としての職務内容や，必要な資質・力量を理解する。 ・メンター教員の授業や生徒指導を中心とした教育活動等を，視点を明確にして観察・分析する。 ・職員会，指導部会，教科部会，学年会等の参与観察を通して，教育課程における校務分掌体系と，学校組織の一員として教師の役割を理解する。
教育臨床実習Ｂ	3 単位	1 年次 10 月～2 月	90 時間	・教育臨床に関わる主任等（以下の４つ）に必要な能力開発のために，課題の分析と改善，ケース会議運営の実習から，課題を解決するための視点や方法を身につける。 （１）生徒指導主事(主任)・教育相談主任等 （２）道徳教育推進教師・道徳主任等 （３）特別活動主任等 （４）特別支援教育コーディネーター等 ＊「ケース会議運営の実習」は一つだけ実施し，(1)～(4)を含むような形が望ましい。
授業開発臨床実習Ｂ	3 単位	2 年次 4 月～9 月	90 時間	・自己課題をもち，自他の授業を参観し，記録を分析するとともに考察や改善案をまとめる。 ・先見的かつグローバルな視点をもって教材開発に取り組み，新たな授業を開発する。 ・教師が主体的に見出した課題を解決する校内研究とするための改善策を提案する。 ・児童生徒の資質・能力を高めるための授業提案を行い，他者と協働して開発的な授業づくりを進めるなど，校内研究をコーディネートする。

4　「学校教育臨床実習」，「特別支援学校臨床実習」の位置づけ

図１は，教職大学院の２年間の学修における「学校教育臨床実習」，「特別支援学校臨床実習」の位置づけをイメージ図に表したものである。

図１　２年間の学修における「学校教育臨床実習」，「特別支援学校臨床実習」の位置づけ



※現職院生の「基礎実習」は，これまでの教職経験の内容を審査の上で，単位を既に取得したものと見なすことができる。

※デザイン発表会：Ｍ１院生が開発実践のテーマや見通し（デザイン）を発表し，今後の開発実践の方向を具体化する。院生と大学教員で実施する。

※中間発表会：Ｍ２院生が，これまでの開発実践における成果と課題を発表し，開発実践報告会までの見通しをもつ。院生と大学教員で実施する。

※開発実践報告会：Ｍ２院生が，学修成果を開発実践報告として一般に公開する。現職院生所属学校関係者，SM 院生実習学校関係者，教育委員会関係者，院生，大学教員，一般参加者が一同に会して実施する。

※「学校教育臨床実習（現職院生対象）」の「教育臨床実習Ｂ」と「授業開発臨床実習Ｂ」の実施時期は，院生の開発実践テーマの内容によって変更になる場合がある。

5 「学校教育臨床実習」，「特別支援学校臨床実習」の指導体制

1 チームによる指導

「学校教育臨床実習・特別支援学校臨床実習」の指導は，大学教員（研究者教員と実務家教員）と実習校教員がチームを編成し，一人の院生（実習生）に対して組織的な指導を行う。

大学教員は，院生（実習生）の指導者としての役割を担う。そのため，研究者教員と実務家教員が協働して実習校を巡回訪問し，実習校との協議，院生（実習生）の面談・観察・指導を行う。

実習校教員は，院生（実習生）のメンターティーチャーとしての役割を担う。そのため，院生（実習生）が円滑に実習を進められるように，環境整備を行ったり適宜助言を与えたりする。

指導教員（大学教員）とメンターティーチャー（実習校教員）は，日常的・定期的に合同協議を実施し，実習の展開状況を把握しながら協働して指導に努める。この日常的・定期的な合同協議や協働指導を「スクールミーティング」と呼ぶ。

役割	担当者	具体的な動き
指導教員	大学教員 （研究者教員と実務家教員）	・院生（実習生）の実践に対する問題意識や課題に関する指導，確認を行う。 ・実習計画作成支援や実習報告書の指導等実習全体にわたる指導，助言を行う。 ・日常的，定期的に実習校へ足を運び，院生（実習生）の実習状況を把握し，メンターティーチャーと協働して院生（実習生）の指導に当たる。
メンターティチャー	実習校教員 （実習校にて決定する）	・院生（実習生）が円滑に実習を進められるように，座席や必要な物品を確認するなどの環境整備を行う。 ・メンターティーチャーや，院生（実習生）が所属する学級を決め，日常的に支援（指導を含む）する。 ・実習中にトラブルが生じた場合は，大学教員へ連絡するとともに，適切に対応する。

2 指導と評価の基本的な手順

（ア）事前指導

大学教員（研究者教員と実務家教員）が，院生（実習生）の実習に対する問題意識や課題を確認するとともに，個別の実習計画書の作成や，実習報告書等の各種資料の蓄積及び活用の在り方を指導する。この実習計画書を事前に実習校に届け，実習校の行事予定等から確認・修正する。

（イ）オリエンテーション

実習の運営計画については，事前に大学教員が実習校に出向き，実習校側と協議する。更に実習校では，校長及び教頭がメンターティーチャーとともに，実習生に対して期待する姿や注意事項などの事前指導を行う。

（ウ）スクールミーティング

実習中，日常的・定期的に大学教員（研究者教員と実務家教員）が実習校を訪問し，実習経過を把握するとともに，メンターティーチャーと協働で実習生の指導を行う。

（エ）中間報告会

ＳＭ院生，現職院生ともに，全ての実習期間の途中で「中間報告会」を行い，実習の進捗状況を確

認するとともに，その後の課題と解決へ向けての到達目標や見通しを明確にする。

この「中間報告会」は，大学教員と教育実践開発コースの院生（実習生）全員が参加し，大学にて実施することを基本とする。

（オ）最終報告会

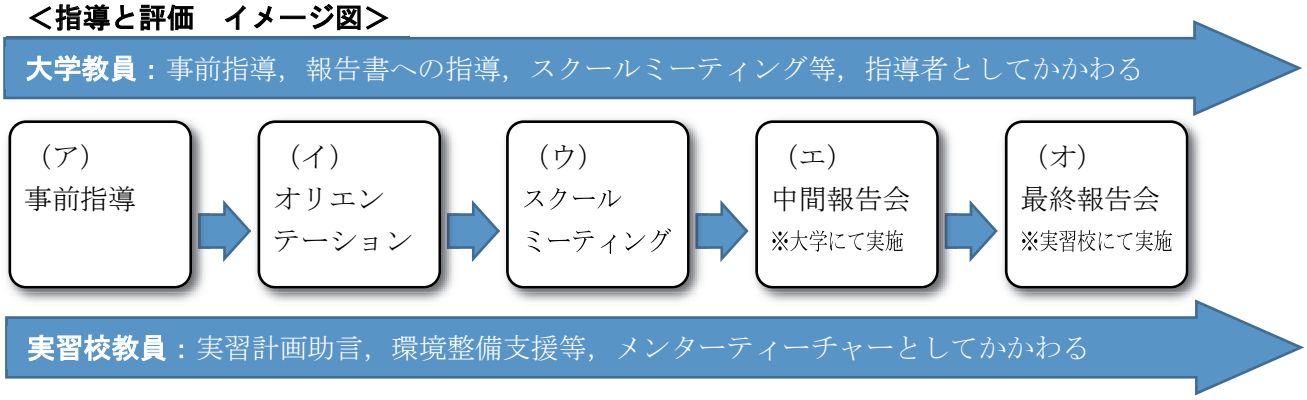
ＳＭ院生，現職院生ともに，全ての実習が終了する段階で，各実習を振り返り，実習の成果を発表する「最終報告会」を行う。

この「最終報告会」は，大学教員と院生（実習生），実習校の管理職及びメンターティーチャーが参加し，実習校にて実施することとする。

（カ）実習の評価

実習校の管理職とメンターティーチャーは，「最終報告会」での報告内容や提出された実習報告書つづり（ポートフォリオ）等を参考にして，実習の評価を行う。大学教員（研究者教員と実務家教員）は，実習校からの評価に基づき「学校教育臨床実習・特別支援学校臨床実習」の最終的な評価を行う。

＜指導と評価　イメージ図＞



３　実習にかかわる連携協力校

「連携協力校」とは，「学校教育臨床実習・特別支援学校臨床実習」の実習をはじめ「開発実践報告」等の科目における実践や課題追究等のフィールドとして協力を得る学校である。具体的には，現職院生の所属校を基本に，岐阜大学教育学部附属小・中学校及び岐阜県教育委員会，岐阜市教育委員会との協議により決定した岐阜市立の小学校・中学校，岐阜県立の高等学校・特別支援学校を加えたものをいう。

小学校・中学校の場合は，現職院生が所属するかどうかに関わらず，以下の１１校を継続的な「連携協力校」としており，ＳＭ院生の実習を実施する学校は，この１１校から年度ごとに設定する。

校　種	連　携　協　力　校	
小学校 （５校）	○岐阜市立加納小学校 ○岐阜市立長良西小学校 ○岐阜大学教育学部附属小学校	○岐阜市立長良小学校 ○岐阜市立長良東小学校
中学校 （６校）	○岐阜市立加納中学校 ○岐阜市立東長良中学校 ○岐阜市立陽南中学校	○岐阜市立長良中学校 ○岐阜市立青山中学校 ○岐阜大学教育学部附属中学校

高等学校・特別支援学校の場合は，ＳＭ院生の実習を実施する学校を年度ごとに検討し「連携協力校」として協力を依頼する。

なお，現職院生の実習は，校種に関わらず，所属(元)校で行うこととする。

４　ＳＭ院生の実習校決定の手順

ＳＭ院生の実習校は，本人が所有する教員免許状や本人の希望校種などを確認し，岐阜県教育委員会，岐阜市教育委員会，附属小中学校と実習に適する学校を協議した上で，以下の手順で決定する。

① 希望校種が小・中学校である場合，上記 11 校の中で現職教員を派遣している学校に依頼する。
② 希望校種が高等学校である場合，ＳＭ院生（実習者本人）が卒業した学校に依頼する。
③ ①②で決まらない場合，岐阜県教育委員会（教職員課）と再協議の上，適切な学校に依頼する。
④ ①～③で決まらない場合，岐阜大学教育学部附属小・中学校へ依頼する。
⑤ 対象となる院生の実習校の最終決定は，「教職大学院運営委員会」の決議による。

５ 連携連絡協議会と連携協力校

岐阜大学教職大学院（以下，「教職大学院」という。）は，教職大学院における多面的な実践力をもつ高度な教育専門職養成教育の充実と改善を図ることを目的として，岐阜大学教職大学院連携連絡協議会（以下，「連携連絡協議会」という。）を設置する。連携連絡協議会は，岐阜県教育委員会事務局関係者，岐阜市教育委員会事務局関係者，連携協力校の校長，岐阜大学教育学部附属小・中学校の副校長，教職大学院の教員および教職大学院が必要と認める者で組織する。

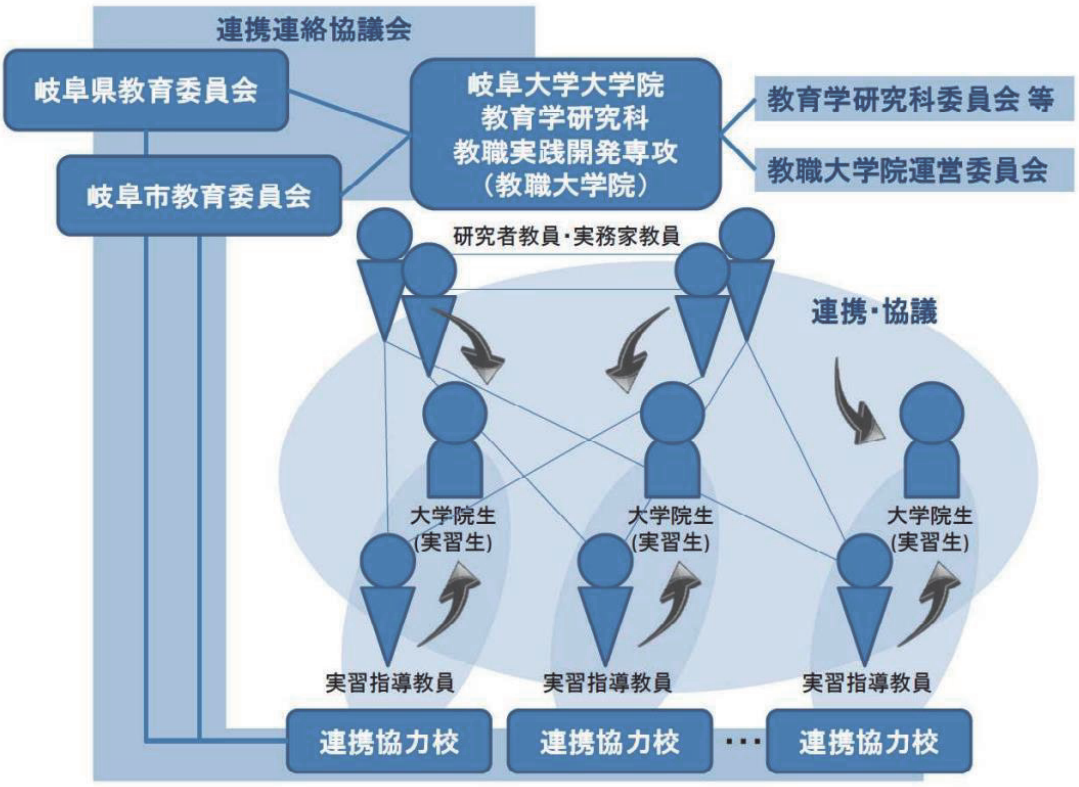
連携連絡協議会は，年度に２回開催し，以下の内容について具体的に協議・検討する。

・教職大学院の学修内容，院生の学修状況や学修成果の確認と評価
・学校教育臨床実習，特別支援学校臨床実習に係る実習計画，実習指導体制に関すること
・開発実践報告作成に係る計画立案及び実施に関すること
・その他連携連絡協議会の目的を達成するために必要な事項

６ 教職大学院と教育委員会との緊急連絡体制

教職大学院が中心となり，連携連絡協議会において緊急連絡体制を構築し，情報交換を密に行う。教職大学院側の直接の連絡窓口は学務係が担当し，ここで得られた情報については大学の研究科委員会や教職大学院運営委員会において協議する。

＜指導体制　イメージ図＞



6 「学校教育臨床実習」，「特別支援学校臨床実習」の評価

1 実習評価表

実習校が作成した実習評価票（下記）に基づき，大学教員（研究者教員と実務家教員）が協議の上評価と単位認定を行う。

様式 1（※学校教育臨床実習）

令和　年度 【　　ア　　】 （　　イ　　）臨床実習評価票　　岐阜大学教職大学院				
年	氏 名		専 攻	大学院教育学研究科 教職実践開発専攻（教職大学院）
実 習 校 名	立　　学校		配属学級等	
実習期間	令和　年　月　日（　）～　令和　年　月　日（　）			
総出席日数（　）日×8時間＝（　）時間		遅刻回数（　）回（　時間）		
欠席日数等（　）日×8時間＝（　）時間		早退回数（　）回（　時間）		
実施した授業等の時数（教科・領域・その他）				時間
				時間
				時間
				時間
	合　　計			時間
提出物確認	□ 臨床実習計画　□ 臨床実習記録（　枚）　□ 臨床実習実施報告書			
所見				
種別	評 価 要 素		評 定	
イ 1			S A B C D	
イ 2	ウ		S A B C D	
イ 3			S A B C D	
イ 4			S A B C D	
総合評価	S（秀）A（優）B（良）C（可）D（不可）		メンターティーチャー	印
			メンターティーチャー	印

岐阜大学教育学研究科　教職実践開発専攻代表　様

以上のとおり評価しましたので報告します。

令和　　年　　月　　日

実習校

校 長　　印

＜判定＞ 上記の臨床実習について次のとおり判定する。（S、A、B、Cは単位認定、Dは単位認定不可）

判定	S（秀）A（優）B（良）C（可）D（不可）	（所見）

令和　　年　　月　　日

実務家教員　　印

研究者教員　　印

・「 ア 」は，「学校教育臨床実習」「特別支援学校臨床実習」の種別を記載する。なお，「学校教育臨床実習」は**様式１**，「特別支援学校臨床実習」は**様式特１**とする。
・「 イ 」は，実習の領域を記載する
・「 ウ 」は，下記に示す種別ごとの「評価要素」を記載する。

２　実習における領域ごとの評価要素

「学校教育臨床実習」

<table>
<tr><th>ＳＭ院生対象</th><th>現職院生対象</th></tr>
<tr><td colspan="2">【基礎実習】
１「学校の教育目標と教育課程」に関する事項
２「学校組織と校務分掌」に関する事項
３「児童生徒理解と教育臨床」に関する事項
４「授業観察，分析と授業開発」に関する事項</td></tr>
<tr><td>【教育臨床実習Ａ】
１「生徒指導・教育相談」に関する事項
２「道徳教育」に関する事項
３「特別活動」に関する事項
４「学校カウンセリング」に関する事項</td><td>【教育臨床実習Ｂ】
１「学校の組織をふまえた生徒指導・教育相談」に関する事項
２「学校の教育目標をふまえた道徳教育」に関する事項
３「学校の教育目標をふまえた特別活動」に関する事項
４「学校の組織をふまえた学校カウンセリング」に関する事項</td></tr>
<tr><td>【授業開発臨床実習Ａ】
１「教育課程の編成と評価」に関する事項
２「指導計画の立案と教材開発」に関する事項
３「授業の設計と評価」に関する事項
４「授業の分析と省察」に関する事項</td><td>【授業開発臨床実習Ｂ】
１「教育課程の改編と評価」に関する事項
２「先取的な単元構想と授業開発」に関する事項
３「確かな教育観に基づく授業の設計と評価」に関する事項
４「授業の改善と省察」に関する事項</td></tr>
</table>

7 「基礎実習」における単位認定について（※現職院生のみ対象）

現職院生の「基礎実習」については，「岐阜大学教職大学院における学校教育臨床実習及び特別支援学校臨床実習の単位認定に関する基準」により，以下の特別な規定が設けられている。

○「現職院生」については，その「教職経験」の内容を審査の上で，「基礎実習」の単位を既に取得したものと見なすことができる。
○「基礎実習」を既取得と見なすことを希望する者は，「(経歴の）基準」を満たすことを証明する書面，「教職経験に係る実績報告書」及び各人や各校の実情に応じて「基礎実習」の内容に対応すると考えうる実践経験を記述した関連資料を添えて，研究科長に申請するものとする。
○ 岐阜大学教職大学院運営委員会は，提出書類に基づいて認定評価の可否を審査し，その結果に基づき「基礎実習」を既取得とみなし，これを既取得単位として取り扱う。

この規定に基づき，「基礎実習」の認定評価に関する基準を以下に定める。現職院生は以下の基準に適応する教職経験を「別紙１，２」にまとめ，根拠資料を添付して，指定された期日までに提出する。

【「基礎実習」の認定評価に関する基準】
１「学校の教育目標と教育課程」に関する業務実績
・学校の教育目標の具現に向けて，教育課程を工夫したり改善したりして，教育活動の工夫・改善に取り組んだ実績
２「学校組織と校務分掌」に関する業務実績
・校務分掌（所属した各種委員会や担当した主任等）を自覚し，学校の運営にかかわった実績
３「児童生徒理解と教育臨床」に関する業務実績
・児童・生徒の実態に応じた，生徒指導・教育相談や道徳教育，または特別活動の実績
４「授業観察，分析と授業開発」に関する業務実績
・教科等の目的や目標を理解し，年間指導計画の作成や指導案の作成，主体的な授業実践や授業改善に取り組んだ実績

別紙１（「基礎実習」単位の認定評価に関する提出書類）

令和○年○月○日

岐阜大学大学院教育学研究科長　殿

氏名　○○　○○

岐阜大学教職大学院における学校教育臨床実習及び特別支援学校臨床実習の単位認定に関する基準４条に基づき，「基礎実習」を既取得とみなしていただきますよう申請します。

教職経験に係る実績報告書

Ⅰ「基礎実習」の認定評価に関する基準

１「学校の教育目標と教育課程」に関する業務実績
２「学校組織と校務分掌」に関する業務実績
３「児童生徒理解と教育臨床」に関する業務実績
４「授業観察，分析と授業開発」に関する業務実績

別紙２（「基礎実習」単位の認定評価に関する提出書類）

Ⅱ「基礎的な経歴」（本人記載）

学籍番号（　　）

在 籍 校（　　学校　）　氏名（　　）（　　）歳

※教職大学院に入学する直前の3月31日現在の状況で記入する

○所有免許状　小（　）種，中（　）種　（　　），高（　）種　（　　），
特別支援学校（　　）種（　）

○校種経験　小学校（　　年）　中学校（　　年）
高等学校（　　年）　特別支援学校（　　年）
※特別支援学校の場合　経験のある項目に○印をつける
（視覚障害，聴覚障害，知的障害，肢体不自由，病弱）

○教育行政経験　有　（部局名　　年）

○経歴　※有りの場合，○印をつけ，通算年数等を記入。

主任歴	教務主任	有（　　年）
	生徒指導主事	有（　　年）
	学年主任	有（　　年）
	保健主事	有（　　年）
	進路指導主事	有（　　年）
	寮務主事（高・特のみ）	有（　　年）
	学科主任（高・特のみ）	有（　　年）
	図書主任（高・特のみ）	有（　　年）
	農場長（高のみ）	有（　　年）
その他の主任等歴	研究主任	有（　　年）
	教科主任	有（　　年）
	委員長・部会等の長	有（　　年）
	その他特記すべき主任等	有（　　年）
	（　　）	有（　　年）
	（　　）	有（　　年）
教育実習生の指導経験		有（　　回　　人）

部活動（クラブ）に関する特記すべき実績
・○○大会優勝

教育実践記録に関する特記すべき実績
・○○賞

校外（市町村，県，全国）の研究会や学会等での特記すべき役職経験・発表実績
・○○大会の○○分科会の発表者

学級担任歴（※担任したところに○印をつける）

小学校	１	２	３	４	５	６	特学
中学校	１	２	３	特学			
高等学校	１	２	３				
特別支援学校	小学部	中学部	高等部				

第２部　「学校教育臨床実習」の内容

1　ＳＭ院生対象の「学校教育臨床実習」

１　「基礎実習」（４単位，120 時間）

ＳＭ院生が行う「基礎実習」では，学部の教育実習を踏まえ，教育活動全般について参観・分析をとおして，教員としての職務内容や必要な資質・能力の力量をつける。また，学校の教育目標や教育課程及び学校組織の一員としての教師の役割を理解し，授業や生徒指導を中心とした教育活動について，視点を明確にして観察・分析・記録する。

この実習においては，特に「視点をもって観察・分析する力」「自ら課題を発見する力」「端的にまとめて表現する力」「体系的に捉えて理解する力」「状況を客観的に判断する力」の力量を養成する。

実習内容は，教科(総合的な学習の時間，外国語活動を含む)，道徳(人権教育を含む)，特別活動の３分野及び授業以外の場での教師の役割を多面的・多角的に理解し，校務分掌上の役割を把握する。

これらの諸活動に参観・協働及び分析を通して，教員としての職務内容や必要な資質・能力を高めるとともに，明確な視点をもって，観察・分析し，自ら課題を発見し，２年次の学校教育臨床実習に生かす。

＜実習実施時期＞

・１年次後期１０月～３月に実施する。
・実施計画は，１０月～１月までの毎週金曜日を計画する。
・２月，３月は，大学の講義日程を調整し，１０月～１月でカバーしきれなかった分野(道徳や特別活動等)及び校務分掌に関する実習を計画・実施する。

＜実習開始の手順＞

・７月に，基礎実習の事前指導を大学で行う。
・８月上旬に実習生と大学の指導教員が実習校へ出かけ，オリエンテーションをおこなう。その際実習実施計画を作成するために実習校の行事予定表，時間割等を入手する。なお，職員室の机，駐車場，給食等についても実習校に確認・依頼する。
・８月中旬から９月中旬に，実習計画案を作成し，実習校へ実習生のみで出かけ，学校の担当者と協議する。具体的には，実習校のメンターティーチャー（実習校教員）と打ち合わせをし，実習計画を確定する。確定した実習計画は,実習校の校長，メンターティーチャー，大学の指導教員(研究者教員と実務家教員)へ後日提出する。
・１０月の第１週の金曜日から基礎実習が開始される。なお，学校の事情により,開始日が早まることがある。

＜実習報告＞

・毎週金曜日の実習後，「基礎実習」記録をまとめ，月曜日に大学の指導教員（研究者教員と実務家教員）に，メールにて提出する。
・大学の指導教員から返信される報告書の「指導，助言」を受け，必要があれば報告書を修正する。
・全ての報告書や関係資料はポートフォリオに綴じ，定期的にメンターティーチャーへ提出し，検印を受ける。

＜実習課題例＞

1　教科（総合的な学習の時間，外国語活動の領域を含む）
①単位時間の学習過程の工夫
②本時のねらいと評価基準
③児童，生徒の実態
④発問の工夫
⑤話し方と聞き方
⑥板書の工夫と板書の構造化
⑦導入と学習課題の工夫
⑧支援の仕方と見届け
⑨教えることと考えさせること
⑩一斉指導と個別指導（個を伸ばす指導）
⑪教育機器の活用
⑫特別な支援を必要とする児童・生徒への配慮と指導
⑬効果的な資料の提示と活用
⑭意欲を高める学習指導
⑮評価規準と評価基準
⑯授業と高校・大学入学試験対応
2　道徳（人権教育を含む）
①道徳の目標と主題構成
②主発問と補助発問
③道徳的実践と道徳的実践力
④他の教育活動との関連
⑤授業に生かす資料分析
⑥道徳の評価
3　特別活動（学校行事，生徒指導，教育相談，キャリア教育を含む）
①朝の会，終わりの会の意義と役割
②基本的生活習慣の指導
③不登校児童・生徒への援助
④行事への取り組み
⑤学級の諸問題への対処
⑥健康安全指導
⑦生徒指導と教育相談
⑧支持的風土が醸成された学級経営
⑨生活記録を生かした学級経営
⑩特別な支援を必要とする児童・生徒の指導･援助
⑪問題行動ある児童・生徒への対応
⑫いじめ問題への教育課程に関する事項
⑬クラブ活動，部活動に関する事項
4　教育目標と教育課程（教育理念，学校課題，指導の重点等）
5　各種の全体計画（生徒指導，道徳，人権，キャリア教育，特別支援教育，健康教育等）
6　校内研究推進（校内研修，教科部会等）
7　危機管理（安全教育，情報の危機管理，事故発生時の対応等）

＜実習報告会＞

・ＳＭ院生は，中間及び最終実習報告書を作成して大学の指導教員（研究者教員と実務家教員）へ提出する。
・報告会は「中間実習報告会」と「最終実習報告会」の２段階に分けておこなう。
・中間実習報告会は，ＳＭ院生と大学の指導教員が参加し，１２月に大学で実施する。
・最終実習報告会は，実習校の管理職（１名以上），メンターティーチャー（１名以上），ＳＭ院生，大学の指導教員が参加し，実習校で３月までに実施する。

＜実習の留意点＞

- 実習校には,管理職（校長，教頭，主幹）や教務主任，研究主任等各種の主任がいる。事前に了解を得た上で，積極的に時間をつくり，指導を仰ぐようにする。なお，助言を求める場合は，端的に話をし，アドバイスを受けると良い。
- 「基礎実習」では，実習校で１２０時間の実習計画を立て，実施し，その記録を提出する。提出は，Ａ４・２０枚以上とする。なお，実習課題は,１日に２課題でもかまわないが，課題の重複は避ける。
- 実習記録の課題は，実習課題例を参考にするとともに，自らの開発実践報告のテーマや教育的な関心に基づいて決定する。そして，その課題をもとに観察・分析及び省察を行う。
- 毎週金曜日は実習校が教職大学院の学びの場となる。実習校の事情により，開始日の変更や校外活動引率等があるが基本的に実習校の計画・意向に沿って実習する。
- ２～３月の予定については，１２月の中間実習報告会の折に，事前に入手しておいた行事予定を基にして，大学の指導教員と打ち合わせ実習日を決定する。
- ３月までに開催される実習校での最終実習報告会の折に，４月の行事予定を入手し，次年度の学校教育臨床実習（月～木曜日）の計画に着手する。
- 病気等で欠席や遅刻・早退や交通事故等は，先ずは実習校に連絡し，その後大学の実習担当教員に連絡する。

SM院生対象の学校教育臨床実習の単位認定に関する評価基準

【基礎実習のねらい】

教育活動全般について参観・分析をとおして，教員としての職務内容や必要な資質・能力の力量をつけ，学校の教育目標や教育課程及び学校組織の一員としての教師の役割を理解し，授業や生徒指導を中心とした教育活動について，視点を明確にして観察・分析・記録する

評価項目	育成する資質・能力	実習内容	評価基準
学校の教育目標と教育課程	・教育活動や組織編制，校務分掌等を，体系的に捉えて理解する力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力	・職員会，指導部会，教科部会，学年会等の参与観察を通して，教育課程における校務分掌体系と，学校組織の一員として教師の役割を理解する。	S：学校の現状分析ができ，課題や原因を踏まえ，充実や改善の意見を述べた。 A：学校の現状分析ができ，課題や原因を考えることができた。 B：学校の取組や理念を理解し，その学校の一員として行動ができた。 C：学校の取組や理念を理解していた。 D：学校の取組や理念が理解できなかった。
学校組織と校務分掌	・教育活動や組織編制，校務分掌等を，体系的に捉えて理解する力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力	・職員会，指導部会，教科部会，学年会等の参与観察を通して，教育課程における校務分掌体系と，学校組織の一員として教師の役割を理解する。	S：学校の現状分析ができ，課題や原因を踏まえ，充実や改善の意見を述べた。 A：学校の現状分析ができ，課題や原因を考えることができた。 B：学校の取組や理念を理解し，その学校の一員として行動ができた。 C：学校の取組や理念を理解していた。 D：学校の取組や理念が理解できなかった。
児童生徒理解と教育臨床	・児童生徒を共感的に理解したり，客観的に判断したりする力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力	・メンター教員の生徒指導を中心とした教育活動等を，視点を明確にして観察・分析する。	S：学校の現状分析ができ，課題や原因を踏まえ，充実や改善の意見を述べた。 A：学校の現状分析ができ，課題や原因を考えることができた。 B：学校の取組や理念を理解し，その学校の一員として行動ができた。 C：学校の取組や理念を理解していた。 D：学校の取組や理念が理解できなかった。
授業観察，分析と授業開発	・自他の授業や教育活動を，視点をもって観察・分析する力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力	・メンター教員の授業を中心とした教育活動等を，視点を明確にして観察・分析する。	S：学校の現状分析ができ，課題や原因を踏まえ，充実や改善の意見を述べた。 A：学校の現状分析ができ，課題や原因を考えることができた。 B：学校の取組や理念を理解し，その学校の一員として行動ができた。 C：学校の取組や理念を理解していた。 D：学校の取組や理念が理解できなかった。

（様式１－１）

令和　　年度「基礎実習」　実施計画書

実習者氏名　　**実習校名**

月	日	曜	学校行事	実習課題・実習内容	分野	時間
9						
10		金				
		金				
		金				
		金				
11		金				
		金				
		金				
		金				
12		金				
		金				
		金				
1		金				
		金				
		金				
		金				
2～3						

・９月中に実習校の担当者の先生と実施計画について指導していただく日を設ける。

・学校との打合せによって，９月より実地演習を始める場合は，９月の欄を付け加えた計画表を作成する。

・２０枚分のレポートを提出する。１日に複数の課題で内容をまとめてもよい。その場合は，１日を複数行に分けて計画表を作成することも考えられる。
・分野の欄には，実習課題例を参考にして記す。実習課題例以外の課題を設定するときは，「課題外」と記す。
・実習課題は重複を避ける。
・計画が変わることも当然あるので，臨機応変に対応する。
・１月末までに１５枚以上の実習記録を提出する。残りの５枚については，２～３月中に提出する。

・２～３月は，１月までに実施できなかった課題（道徳，特活，校内研究等）について研修計画を立てる。
なお，１２月に実施される中間実習報告会までに２～３月の行事予定を入手し，大学の指導教員と相談の上，計画立案すると良い。

【留意点１】分野の欄は，「教科」「道徳」「特活」等を記入する。
【留意点２】この実施計画書はメンターティーチャーに確認後，大学の教員（研究者教員，実務家教員）に提出する。

（様式１－２）

「基　礎　実　習」　記 録

<table>
<tr><td colspan="2">月　日　　曜日</td><td colspan="2">実習者［　　］</td><td>実習校［　　］</td></tr>
<tr><td colspan="2">本日の実習課題</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td></td><td>教科</td><td>学級</td><td colspan="2">実 習 の 記 録</td></tr>
<tr><td>第１時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第２時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第３時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第４時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第５時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第６時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>課題についての実習内容等</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>メンター・ティチャー</td><td>印</td><td colspan="3">【指導教員（大学）コメント】</td></tr>
</table>

（様式１－３）

「基礎実習」　授業・生徒指導等観察記録

月　日（　　）	年　組	教科・領域名：	授業者：
本日の課題			
時刻	教師の働きかけ	児童・生徒の学習活動・発言等	

【留意点１】この様式を参考にして，授業を詳細に記録する。また，この様式に合わない講話等は各自が工夫して記録に残す。

（様式１－４）

「基礎実習」　中間報告書

実習者氏名：	実習校：

基礎実習を通して学んだことを実習記録・授業記録等を基に整理する。また，今後の参観授業，参加する会議等の計画を作成し，後半の基礎実習に生かすようにする。

（１）教科の授業参加・参観で学んだこと

※学んだことを次のような項目で整理する。
①教科書・教材の在り方
②子どもの理解の在り方
③教師の指導の在り方
④学習環境の在り方
⑤学習集団(学習規律・学習態度・学習意欲)の在り方

（２）道徳・特別活動の参加・参観で学んだこと

※学んだことを次のような項目で整理する。
①道徳の授業の望ましい授業展開の在り方
②子ども理解と道徳の授業の在り方
③学級活動・ホームルーム活動の指導の在り方
④学校行事・児童会・生徒会活動・クラブ活動・部活動の指導の在り方
⑤「道徳」「特別活動」「各教科」「生徒指導・教育相談」の関連付け

（３）各種活動や各種会議で学んだこと

※会議等に参加して，学んだことを記述する。

（４）教職員の学校での生活から学んだこと

※教職員の１日の学校生活を通して，学んだことを記述する。

（５）2 月～3 月の基礎実習の計画について

※充分実習できていない分野について，金曜日以外の実習を含め計画を立てる。
※開発実践報告を視野に入れ，興味・関心のある授業及び様々な会議・活動について計画を立てる。

【留意点１】⑴～⑸の項目は，書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。Ａ４・２枚にまとめる。

【留意点２】この中間報告会は，Ｍ２ストマス院生全員により大学で実施する。なお，実施月は 12 月であるが，日時については，大学の指導教員が連絡する。

（様式１－５）

「基礎実習」　最終報告書

実習者氏名：	実習校：

基礎実習を通して学んだことを整理し，自分で見つけた課題を明確にして，Ｍ２の学校教育臨床実習につなげる。

（１）教科の授業参加・参観で学んだこと

※次のような中間報告会で報告した視点に基づき，自分の課題を明確にしてまとめる。
①教科書・教材の在り方
②子ども理解の在り方
③教師の指導の在り方
④学習環境の在り方
⑤学習集団(学習規律・学習態度・学習意欲)の在り方

（２）道徳・特別活動の参加・参観で学んだこと

※次のような中間報告会で報告した視点に基づき，自分の課題を明確にしてまとめる。
①道徳の授業の望ましい授業展開の在り方
②子ども理解と道徳の授業の在り方
③学級活動・ホームルーム活動の指導の在り方
④学校行事・児童会・生徒会活動・クラブ活動・部活動の指導の在り方
⑤「道徳」「特別活動」「各教科」「生徒指導・教育相談」の関連付け

（３）各種活動や各種会議で学んだこと

※会議等に参加して，学んだことを記述する。

（４）教職員の学校での生活から学んだこと

※教職員の１日の学校生活を通して，学んだことを記述する。

（５）実習全体のまとめと次年度の課題について

※実習の省察と次年度の課題及びもっと追求したいことについて，記述する。

【留意点１】⑴～⑸の項目は，書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。Ａ４・３枚にまとめる。

【留意点２】最終報告会は，管理職，メンターティーチャー，大学の指導教員が参加し，実習校で実施する。なお，実施月は２～３月であるが，日時については，大学の指導教員が連絡する。

２　「教育臨床実習Ａ」（３単位，90 時間）

ＳＭ院生が行う「教育臨床実習」では，「生徒指導・教育相談の実践の理解・分析・考察および指導組織の理解」「道徳教育の実践の理解・分析・考察および道徳授業の指導法の理解」「特別活動の実践の理解・分析・考察および指導組織の理解」「学校カウンセリングの実践の理解・分析・考察およびチーム会議の理解」等を通じて，高度な教育臨床実践力を開発する。

この実習においては，特に「生徒指導・教育相談」について指導組織を含めて理解する力，「道徳教育」について授業の指導法を含めて理解する力，「特別活動」について指導組織を含めて理解する力，「学校カウンセリング」についてチーム会議を含めて理解する力を育成する。

＜実習実施時期＞

・２年次前期４月下旬～６月に実施する。
・実習計画は，４月下旬から５月までの月～木曜日に計画し，実習の後半において，特別活動（高等学校は複数回）と道徳（小中学校のみ）の授業を実施する。

＜実習開始の手順＞

・３月に，教育臨床実習 A と合わせて授業開発臨床実習Ａの事前指導を大学で行う。
・４月上旬に実習生と大学の指導教員が実習校へ出かけオリエンテーションをおこなう。その際，実習実施計画を作成するために，実習校の行事予定表，メンターティーチャー（実習校指導教員）等についても実習校に確認・依頼する。
・入手した行事計画等を参照し，当面の実習計画を作成し，実習校の担当者と協議する。具体的には，実習校のメンターティーチャーと打ち合わせをし，実習計画を確定する。確定した実習計画は，校長・メンターティーチャー・大学の指導教員（研究者教員と実務家教員）へ提出する。
・４月下旬は，実習課題に基づいて観察記録をとる。（５月はじめの中間報告会で共通理解をし，５月の実習につなぐ）
・５月には，生徒指導・教育相談・学校カウンセリングの理解を深めながら，道徳と特別活動の授業計画・指導案を作成し，実際に授業を行う。尚，授業計画・指導案を作成にあたっては，メンターティーチャーや大学の指導教員の指導を受け，授業の実施日の前日までには，実習校及び大学の指導教員に提出する。

＜実習報告＞

・実習後に「教育臨床実習」記録をまとめ，一週間分程度まとめて大学の指導教員（研究者教員と実務家教員）に直接提出する。
・大学の指導教員から返される報告書の「指導・助言」を受け，必要があれば報告書を修正する。
・実習者は，報告書や関係資料をポートフォリオに綴じてメンターティーチャーに提出し，検印を受ける。

＜実習課題例＞

１「生徒指導・教育相談」
① 生徒指導の意義
② 児童生徒理解の内容と方法
③ 組織的な生徒指導体制の在り方
④ 教育相談の方法
⑤ 問題行動に関する事例研究

２「道徳教育」
⑥ 道徳教育の全体計画・年間指導計画の理解
⑦ 道徳授業に効果的な資料の提示と活用
⑧ アクティブ・ラーニングに対応した道徳授業のあり方
⑨ 道徳授業の多様で質の高い指導方法の理解と活用
⑩ 道徳授業の評価方法の理解と活用
３「特別活動」
⑪ 学校の教育目標と特別活動の年間指導計画の分析
⑫ 学級活動の計画と指導状況に関する考察
⑬ 児童会・生徒会活動の指導と評価の在り方
⑭ クラブ活動（部活動）の指導と課題
⑮ 学校行事の計画と評価の在り方
４「学校カウンセリング」
⑯ カウンセリングマインドの意義と実際
⑰ 問題行動調査（文部科学省）から[暴力][いじめ][不登校][自殺]の実態の分析と理解
⑱「暴力事例」に対する学校カウンセリングの理解
⑲「不登校事例」に対する学校カウンセリングの理解
⑳「いじめ・自殺予防事例」に対する学校カウンセリングの理解

＜実習報告会＞

・ＳＭ院生は，中間及び最終実習報告書を作成し，大学の指導教員（研究者教員と実務家教員）へ提出する。
・報告会は「中間実習報告会」と「最終実習報告会」の２段階に分けておこなう。
・中間実習報告会は，全ＳＭ院生と大学の指導教員が出席し，５月はじめに大学で実施する。
・最終実習報告会は，実習校の管理職（１名以上）・メンターティーチャー（１名以上）・ＳＭ院生・大学の指導教員が参加し，６月に実習校で実施する。

＜教育臨床実習の留意点＞

- 実習校には,管理職や教務主任，生徒指導主事等，教育臨床にかかわる多数の指導者・助言者がいる。事前にアポイントを取った上で，指導を仰ぐようにする。特にこの実習では，メンターティーチャー以外に生徒指導主事･教育相談主任･道徳教育主任･特別活動主任の助言を求める。
- 「教育臨床実習Ａ」では，実習校で９０時間の実習計画を立て，実施し，その記録を提出する。提出は，Ａ４・１５枚以上とする。なお，実習課題は,１日に２課題でもかまわないが，課題の重複は避ける。
- 実習記録の課題は，実習課題例を参考にしたり，自らの開発実践報告のテーマや教育的な関心にしたがったりして，事前に課題を決定し，その視点で観察・分析及び省察を行う。なお，教育臨床観察記録を作成し，実習の課題とつなげる記録を克明にとるように心がける。
- 毎週月曜日～木曜日は実習校が教職大学院の学びの場となる。実習校の事情により，校外活動引率等があるが基本的に実習校の計画・意向に沿って実習する。
- ５月はじめの中間実習報告会は，全ＳＭ院生が集合し，大学の指導教員とともに実習の省察に基づいて,今後の実習の在り方について協議する。
- ６月中に開催される実習校での最終実習報告会では，ポートフォリオの実習記録を冊子にまとめ，出席者に配布し，実践報告をおこなう。
- 病気等で欠席や遅刻・早退や交通事故等は，先ずは実習校に連絡し，その後大学の指導教員に連絡する。

SM院生対象の学校教育臨床実習の単位認定に関する評価基準

【基礎実習のねらい】

教育活動全般について参観・分析をとおして，教員としての職務内容や必要な資質・能力の力量をつけ、学校の教育目標や教育課程及び学校組織の一員としての教師の役割を理解し，授業や生徒指導を中心とした教育活動について，視点を明確にして観察・分析・記録する

評価項目	育成する資質・能力	実習内容	評価基準
学校の教育目標と教育課程	・教育活動や組織編制，校務分掌等を，体系的に捉えて理解する力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力	・職員会，指導部会，教科部会，学年会等の参与観察を通して，教育課程における校務分掌体系と，学校組織の一員として教師の役割を理解する。	S：学校の現状分析ができ、課題や原因を踏まえ、充実や改善の意見を述べた。 A：学校の現状分析ができ、課題や原因を考えることができた。 B：学校の取組や理念を理解し、その学校の一員として行動ができた。 C：学校の取組や理念を理解していた。 D：学校の取組や理念が理解できなかった。
学校組織と校務分掌	・教育活動や組織編制，校務分掌等を，体系的に捉えて理解する力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力	・職員会，指導部会，教科部会，学年会等の参与観察を通して，教育課程における校務分掌体系と，学校組織の一員として教師の役割を理解する。	S：学校の現状分析ができ、課題や原因を踏まえ、充実や改善の意見を述べた。 A：学校の現状分析ができ、課題や原因を考えることができた。 B：学校の取組や理念を理解し、その学校の一員として行動ができた。 C：学校の取組や理念を理解していた。 D：学校の取組や理念が理解できなかった。
児童生徒理解と教育臨床	・児童生徒を共感的に理解したり，客観的に判断したりする力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力	・メンター教員の生徒指導を中心とした教育活動等を，視点を明確にして観察・分析する。	S：学校の現状分析ができ、課題や原因を踏まえ、充実や改善の意見を述べた。 A：学校の現状分析ができ、課題や原因を考えることができた。 B：学校の取組や理念を理解し、その学校の一員として行動ができた。 C：学校の取組や理念を理解していた。 D：学校の取組や理念が理解できなかった。
授業観察、分析と授業開発	・自他の授業や教育活動を，視点をもって観察・分析する力 ・メンター等の指導・助言から自ら課題を発見する力	・メンター教員の授業を中心とした教育活動等を，視点を明確にして観察・分析する。	S：学校の現状分析ができ、課題や原因を踏まえ、充実や改善の意見を述べた。 A：学校の現状分析ができ、課題や原因を考えることができた。 B：学校の取組や理念を理解し、その学校の一員として行動ができた。 C：学校の取組や理念を理解していた。 D：学校の取組や理念が理解できなかった。

（様式１－６）

令和　　年度「教育臨床実習Ａ（ＳＭ院生用）」　実施計画書

実習者氏名　　**実習校名**

月	日	曜	学校行事	実習課題・実習内容 （教育臨床にかかわる先生方の指導）	分野	時間
４月	事前					
４月下旬						
５月						

【留意点１】メンターティーチャーと逐次加除・修正しながら計画・実施する。

（様式１－７）

「教育臨床実習Ａ」　観察・分析する課題計画

実習者氏名　　**実習校名**

記録	課題番号	観察・分析課題　　分野（　　）
１		
２		
３		
４		
５		
６		
７		
８		
９		
１０		
１１		
１２		
１３		
１４		
１５		
１６		
１７		
１８		
１９		
２０		

【留意点１】教育臨床上の参観や，実習校の指導者の談話等を入れて課題を設定する。

（様式１－８）

「教育臨床実習　Ａ（ＳＭ院生用）」　記 録

<table>
<tr><td colspan="2">月　日　曜日</td><td colspan="2">実習者：</td><td>実習校：</td></tr>
<tr><td colspan="2">本日の実習課題</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td></td><td>教科</td><td>学級</td><td colspan="2">実 習 の 記 録</td></tr>
<tr><td>第１時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第２時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第３時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第４時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第５時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第６時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>課題についての実習内容等</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>メンターティーチャー</td><td>印</td><td colspan="3">【指導教員（大学）コメント】</td></tr>
</table>

（様式１－９）

「教育臨床実習Ａ」　観察記録

月　　日（　　）	年　組（学年･全校等）	教科・場面：	指導者：
本日の課題			
場面	教師の働きかけ	児童・生徒の状況等	

【留意点１】この様式を参考にして，教育臨床上の状況を記録する。また，この様式に合わない講話等は各自が工夫して記録に残す。

（様式１－10）

令和　　年度「教育臨床実習Ａ」　授業実施計画書

実習者氏名　　**実習校**

月	日	曜日	～　時間目 （　：　～　：　）	学年	組	本時の内容の概略	授業の変更等

【留意点１】大学の指導教員（研究者教員・実務家教員）へ事前に電子メールにて送付する。

【留意点２】この様式を使い，「授業実施結果」として，「教育臨床実習Ａ」記録とともに，ファイルに綴じる。

（様式１－11）

「教育臨床実習Ａ（ＳＭ院生）」中間報告書

実習者氏名：	実習校：

４月下旬に教育臨床実習を通して学んだことを実習記録・観察記録等を基に整理し，今後の教育臨床実習の実施・５月の授業実施に生かせるよう，Ａ４・２枚にまとめる。

（１）「生徒指導･教育相談」について学んだこと

※学んだことを次のような項目で整理する。
例　生徒指導の意義と教育相談の方法

（２）「道徳教育」について学んだこと

※学んだことを次のような項目で整理する。
例　道徳教育の全体計画・年間指導計画の理解

（３）「特別活動」について学んだこと

※学んだことを次のような項目で整理する。
例　学校の教育目標と特別活動の年間指導計画の分析

（４）「学校カウンセリング」について学んだこと

※学んだことを次のような項目で整理する。
例　カウンセリングマインドの意義と実際

（５）５月の教育臨床実習Ａの計画について

※５月の教育臨床実習をするにあたり，どのように今後進めるのかの概略を記述する。なお，実施する授業に向けての悩みや不安などについても記述する。

【留意点１】⑴～⑸の項目は，書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。
【留意点２】この中間報告会は，Ｍ２ＳＭ院生全員により大学で実施する。なお，実施日については，大学の指導教員が連絡する。

（様式１－12）

「教育臨床実習Ａ」最終報告書

実習者氏名：	実習校：

教育臨床実習を通して学んだことを整理するとともに，授業の実施等の体験を通して，学修したことを踏まえ，最終報告書Ａ４・２枚を作成する。

（１）「生徒指導･教育相談」について学んだこと

※中間報告会を踏まえ，教育臨床実習・授業の実施等について，①~⑤のような観点を加味して，具体的に記述する。
① 生徒指導の意義
② 児童生徒理解の内容と方法
③ 組織的な生徒指導体制の在り方
④ 教育相談の方法
⑤ 問題行動に関する事例研究

（２）「道徳教育」について学んだこと

※中間報告会を踏まえ，教育臨床実習・授業の実施等について，①~⑤のような観点を加味して，具体的に記述する。
① 道徳教育の全体計画・年間指導計画の理解
② 道徳授業に効果的な資料の提示と活用
③ アクティブ・ラーニングに対応した道徳授業の在り方
④ 道徳授業の多様で質の高い指導方法の理解と活用
⑤ 道徳授業の評価方法の理解と活用

（３）「特別活動」について学んだこと

※中間報告会を踏まえ，教育臨床実習・授業の実施等について，①~⑤のような観点を加味して，具体的に記述する。
① 学校の教育目標と特別活動の年間指導計画の分析
② 学級活動の計画と指導状況に関する考察
③ 児童会・生徒会活動の指導と評価の在り方
④ クラブ活動（部活動）の指導と課題
⑤ 学校行事の計画と評価の在り方

（４）「学校カウンセリング」について学んだこと

※中間報告会を踏まえ，教育臨床実習・授業の実施等について，①~⑤のような観点を加味して，具体的に記述する。
① カウンセリングマインドの意義と実際
② 問題行動調査（文部科学省）から[暴力][いじめ][不登校][自殺]の実態の分析と理解
③「暴力事例」に対する学校カウンセリングの理解
④「不登校事例」に対する学校カウンセリングの理解
⑤「いじめ・自殺予防事例」に対する学校カウンセリングの理解

（５）実習のまとめ

※自分自身の教育臨床実習･実践した授業を省察し，成果と課題を整理して記述する。

【留意点１】⑴～⑸の項目は，書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。
【留意点２】この最終報告会は，実習校で実施する。

（様式１－13）

令和　　年度

教育臨床実習Ａ報告

（実習校　　学校）

指導者

メンターティーチャー氏名	
指導教員（大学）氏名	

実習者　学籍番号（　　）

氏名（Ｍ２　　）

令和　年度「教育臨床実習 A」のポートフォリオ・ファイルです。

回覧及びご指導をお願いします。

	校長	教頭	教務主任	メンターティーチャー
印				

【留意点１】「基礎実習報告」「教育臨床実習Ａ報告」「授業開発臨床実習Ａ報告」のポートフォリオ・ファイルの表紙は，全てこの様式である。

【留意点２】この実習報告のポートフォリオ・ファイルには，実習計画，実習授業計画，毎回の記録（基礎実習 20 枚，教育臨床実習Ａ１５枚，授業開発臨床実習Ａ15 枚），単元指導計画，学習指導案，授業等の記録等を綴じて提出する。

なお，このファイルは２冊用意し，実習校へ１部，大学の指導教員に１部提出する。

３　「授業開発臨床実習Ａ」（３単位，90 時間）

ＳＭ院生が行う「授業開発臨床実習」では，自律(立)した教員として，指導計画の全体と学年のサイクルを視野に入れ，教材研究，指導案の作成，１単元の授業開発と実践，指導と評価を一体化させる実践等を通じて，高度な授業実践力を開発する。

この実習においては，特に「教育課程を理解し，カリキュラムを実践する力」「確かな観(教材観，子ども観，指導観，評価観等)を理解する力」「単元のねらいを明確にして，単元構想図，指導計画，展開案等を作成する力」「授業を省察し，更なる課題を発見する力」を育成する。

＜実習実施時期＞

・２年次前期６月～９月である。
・実施計画は，６月から９月までの月～木曜日に計画し，７月中旬からは，学習指導案に基づいて開発実践授業が実施できるようにする。

＜実習開始の手順＞

・３月に，教育臨床実習 A と合わせて授業開発臨床実習Ａの事前指導を大学で行う。
・４月上旬に実習生と大学の指導教員が実習校へ出かけオリエンテーショをおこなう。その際，実習実施計画を作成するために，実習校の行事予定表，時間割等を入手する。尚，教科等を実習する学年・学級，メンターティーチャー(実習校指導教員)等についても実習校に確認・依頼する。
・ 入手した行事計画等を参照し，当面の実習計画を作成し，実習校の担当者と協議する。具体的には，実習校のメンターティーチャーと打ち合わせをし，実習計画を確定する。確定した実習計画は校長，メンターティーチャー，大学の指導教員(研究者教員と実務家教員)へ後日提出する。
・6 月～7 月上旬は授業参観を課題に基づいて授業記録をとる。尚，T・T として，指導教員と協働授業を積極的に行う。
・７月から９月には，単元指導計画・学習指導案を作成し，開発授業実践を行う。尚，単元指導計画，学習指導案の作成にあたっては，メンターティーチャーや大学の指導教員の指導を受け，開発授業実施日の前日までには，実習校及び大学の指導教員に送付する。

＜実習報告＞

・毎日実習後に「授業開発臨床実習」記録をまとめ，速やかに大学の指導教員（研究者教員と実務家教員）に，メールにて提出する。
・大学の指導教員から返信される報告書の「指導・助言」を受け，必要があれば報告書を修正する。
・実習者は，報告書や関係資料をポートフォリオに綴じてメンターティーチャーに提出し，検印を受ける。

＜実習課題例＞

教科(総合的な学習の時間，外国語活動の領域を含む)

① 単元計画と単位時間の学習過程の工夫
② 単元の目標と本時のねらい及び評価基準
③ 児童，生徒の実態と指導技術
④ 質問や発問の工夫と終末の活動
⑤ 対話的な学びと話し方及び聞き方
⑥ 単位時間の目標と板書の工夫・構造化
⑦ 意欲を喚起する導入と学習課題のつくり方
⑧ 個々への支援の仕方と見届け

⑨ 教えることと考えさせることの質と量
⑩ 一斉指導と個別指導(個を伸ばす指導)の在り方
⑪ 思考力･判断力･表現力を培う教育機器の活用
⑫ 要援助児童・生徒への配慮と指導の工夫
⑬ 効果的な資料の提示と活用(教授材と学習材の工夫)
⑭ 継続的に意欲を持ち続ける学習指導
⑮ 評価規準と評価基準を授業に生かす工夫
⑯ 教科の本質（教科の見方・考え方）に基づく授業開発
⑰ 単位時間の教材と学年や学年を超えた教材の系統性・連続性
⑱ 教師と子どもの認識のズレ
⑲ 話し合い活動とアクティブ・ラーニング
⑳ 自己評価と相互評価

＜実習報告会＞

・SM院生は，中間及び最終実習報告書を作成し，大学の指導教員（研究者教員と実務家教員）へ提出する。
・報告会は「中間実習報告会」と「最終実習報告会」の２段階に分けておこなう。
・中間実習報告会は，全ＳＭ院生と大学の指導教員が出席し，７月下旬に大学で実施する。
・最終実習報告会は，実習校の管理職（１名以上），メンターティーチャー（１名以上），ＳＭ院生，大学の指導教員が参加し，９月末日に実習校で実施する。

＜教育臨床実習の留意点＞

- 実習校には,管理職や教務主任，研究主任,学年主任，教科主任等，多数の指導者・助言者がいる。事前にアポイントを取った上で，指導を仰ぐようにする。尚，この実習では，特に，メンターティーチャー以外に研究主任，教科主任の助言を求める。
- 「授業開発臨床実習Ａ」では，実習校で９０時間の実習計画を立て，実施し，その記録を提出する。提出は，Ａ４・１５枚以上とする。尚，実習課題は,１日に２課題でもかまわないが，課題の重複は避ける。
- 実習記録の課題は，実習課題例を参考にするとともに，自らの開発実践報告のテーマや教育的な関心に基づいて決定する。そして，その課題をもとに観察・分析及び省察を行う。尚，授業観察記録（ノート可）を作成し，実習の課題とつなげる記録を克明にとるように心がける。
- 毎週月曜日～木曜日は実習校が教職大学院の学びの場となる。実習校の事情により，校外活動引率等があるが，基本的に実習校の計画・意向に沿って実習する。
- ７月の中間実習報告会は，全ＳＭ院生が集合し，大学の指導教員とともに実習の省察に基づいて，今後の実習の在り方について協議する。
- ９月下旬に開催される実習校での最終実習報告会では，ポートフォリオの実習記録を冊子にまとめ，出席者に配布し，実践報告をおこなう。
- 病気等で欠席や遅刻・早退や交通事故等は，先ずは実習校に連絡し，その後大学の指導教員に連絡する。

SM の学校教育臨床実習の単位認定に関する評価基準

【授業開発臨床実習 A のねらい】

自律（立）した教員として，指導計画の全体と学年のサイクルを視野に入れ，教材研究，指導案の作成，１単元の授業開発と実践，指導と評価を一体化させる実践を通じて，高度な授業実践力を開発する。

評価項目	育成する資質・能力	実習内容	評価基準
「教育課程の編成と評価」に関する事項	教育課程を理解し，カリキュラムを運営する（カリキュラム・マネジメント）力	・資料収集 ・資料分析 ・改善計画の作成 ・改善計画の提案	Ｓ：教育課程及び研究推進について学校の現状分析を踏まえ，充実や改善の意見を述べた。 Ａ：教育課程及び研究推進について学校の現状分析ができ，課題や原因を考えることができた。 Ｂ：教育課程及び研究推進について理解し，その学校の一員として行動ができた。 Ｃ：教育課程及び研究推進について理解していた。 Ｄ：教育課程及び研究推進について理解できなかった。
「指導計画の立案と教材開発」に関する事項	開発的な単元を構想し，教材を開発する力	・資料収集 ・資料分析 ・指導計画の作成 ・指導計画の改善	Ｓ：今日的な課題を踏まえて教材分析をし，系統性を踏まえた開発的な単元指導計画の作成と教材開発をした。 Ａ：今日的な課題を踏まえて教材分析をし，開発的な単元指導計画の作成と教材開発をした。 Ｂ：教材分析をし，単元指導計画の作成と教材開発をした。 Ｃ：教材分析をし，単元指導計画を作成した。 Ｄ：教材分析が不十分で，単元指導計画が作成できなかった。
「授業の設計と評価」に関する事項	指導と評価の一体化した授業設計ができる力	・資料収集 ・資料分析 ・指導案の作成 ・指導案の改善	Ｓ：児童生徒の実態と意識の流れを踏まえ，評価の場と方法を位置付け，指導と評価が一体化した指導案を作成した。 Ａ：児童生徒の実態を踏まえ，評価の場と方法を位置付け，指導と評価が一体化した指導案を作成した。 Ｂ：評価の場と方法を位置付け，指導と評価が一体化した指導案を作成した。 Ｃ：評価の場と方法を位置付けた指導案を作成した。 Ｄ：評価を位置付けた指導案が作成できなかった。
「授業の分析と省察」に関する事項	授業を省察し，更なる課題を発見，改善できる力	・実践分析 ・改善計画の作成 ・改善計画の提案 ・授業研究の運営	Ｓ：授業を省察し，課題を発見し，その改善案により授業を試みた。 Ａ：授業を省察し，課題を発見し，その改善案を作成した。 Ｂ：授業記録，板書，児童生徒の感想などから授業を省察し，課題を発見した。 Ｃ：授業記録，板書，児童生徒の感想などから授業の省察をした。 Ｄ：授業記録，板書，児童生徒の感想などから授業の省察ができなかった。

（様式１－14）

令和　　年度「授業開発臨床実習Ａ（ＳＭ院生用）」　実施計画書

実習者氏名　　**実習校名**

月	日	学校行事	実習課題・実習内容 （研究主任・学年・教科主任等の指導）	分野	時間
5	事前				
6～7					
8					
9					

【留意点１】メンターティーチャーと逐次加除・修正しながら計画・実施する。

（様式１－15）

「授業開発臨床実習Ａ」　観察・分析する課題計画

実習者氏名　　**実習校名**

記録	課題番号	観察・分析課題　　教科名（　　）
１		
２		
３		
４		
５		
６		
７		
８		
９		
１０		
１１		
１２		
１３		
１４		
１５		
１６		
１７		
１８		
１９		
２０		

【留意点１】授業参観ばかりでなく,実習校の指導者の談話等を入れて課題を設定する。

（様式１－16）

「授業開発臨床実習　Ａ（ＳＭ院生用）」　記 録

<table>
<tr><td colspan="2">月　日　　曜日</td><td colspan="2">実習者：</td><td>実習校：</td></tr>
<tr><td colspan="2">本日の実習課題</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td></td><td>教科</td><td>学級</td><td colspan="2">実 習 の 記 録</td></tr>
<tr><td>第１時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第２時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第３時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第４時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第５時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第６時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>課題についての実習内容等</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>メンターティーチャー</td><td>印</td><td colspan="3">【指導教員（大学）コメント】</td></tr>
</table>

（様式１－17）

「授業開発臨床実習Ａ」　授業観察記録

月　日（　　）	年　　組	教科名：	授業者：
本日の課題			
時刻	教師の働きかけ	児童・生徒の学習活動・発言等	

【留意点１】この様式を参考にして,授業記録の詳細を記録する。ノート等に記述しても良い。また，この様式に合わない講話等は各自が工夫して記録に残す。

（様式１－18）

令和　　年度「授業開発臨床実習Ａ」　授業実施計画書

実習者氏名　　**実習校**

月	日	曜日	～時間目 （　：　～　：　）	学年	組	本時の内容の概略	授業の変更等

【留意点１】指導教員（研究者教員，実務家教員）へ事前に電子メールにて送付する。
【留意点２】この様式を使い，「授業実施結果」として，「授業開発臨床実習Ａ」記録とともに，ファイルに綴じる。

（様式１－19）

「授業開発臨床実習Ａ（ＳＭ院生）」中間報告書

実習者氏名：	実習校：

６月～７月に授業開発臨床実習を通して学んだことを実習記録・授業記録等を基に整理し，今後の指導計画や学習指導案の作成，７月・９月の授業実施に生かせるよう，Ａ４・２枚にまとめる。

（１）教育課程・指導計画等について学んだこと

※以下の項目内容を参考にして，各自で項目を整理してまとめる
①実習校の教育目標と授業との関連性
②実習校の教育課程の特徴
③実習校の主題研究(校内研究)の推進
④教科等の年間指導計画，単元指導計画の特徴
⑤教科の基本的な指導過程
⑥教材研究の進め方及び子ども理解の技法

（２）授業参観・授業研究等について学んだこと

※以下の項目内容を参考にして，各自で項目を整理してまとめる
①教科の望ましい授業展開の在り方
②教師の働きかけ(指導,援助)の在り方
③児童・生徒の反応(発言)への教師の対応の在り方
④本時の学習活動に興味・関心を持たせる導入の在り方
⑤学習課題に対する個人追求での教師の指導の在り方
⑥児童・生徒の「学び合い」の場の設定と教師の指導の在り方
⑦授業の終末における「本時のまとめ」の在り方

（３）学習集団の育て方・学び方の指導について学んだこと

※以下の項目内容を参考にして，各自で項目を整理してまとめる
①学習集団(学習規律・学習態度・学習意欲)の育成の在り方
②学び方（話の聞き方・話し方，個人追求の仕方，グループ討議の仕方，全体での話し合いの進め方など）の指導の在り方

（４）夏休み中の予定について

※単元指導計画の作成及び修正，学習指導案の作成等について，夏休みの計画を記す。尚，必要に応じて，メンターティーチャーの指導を受ける日の予定を記述する。

（５）９月の授業開発臨床実習Ａの計画について

※原則１単元分の授業実施をするにあたり，どのように今後進めるのかの概略を記述する。尚，９月の実習に向けての悩みや不安などについても記述する。

【留意点１】⑴～⑸の項目は，書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。
【留意点２】この中間報告会は，Ｍ２ストマス院生全員により大学で実施する。尚，実施日については，大学の指導教員が連絡する。

（様式１－20）

「授業開発臨床実習Ａ」最終報告書

実習者氏名：	実習校：

授業開発臨床実習を通して学んだことを整理するとともに，単元計画の作成，学習指導案の作成，開発的な授業の実施等の体験を通して，学修したことを踏まえ，最終報告書Ａ４・３枚を作成する。

（１） 指導計画について

※中間報告会を踏まえ，自分が授業を実施した単元指導計画の作成について，①～④のような観点を加味して，具体的に記述する。
①単元の学習内容の理解
②単元の学習内容の関連
③単元の指導構想
④単元指導計画の作成と実施及び省察

（２）学習指導案の作成について

※中間報告会を踏まえ，自分が授業を実施した単元指導計画の作成について，①～③のような観点を加味して授業実践の成果と課題を具体的に記述する。
①本時の目標の設定(評価規準の設定)
②本時の指導過程
③本時の評価
④学習指導案作成と授業実践及び省察

（３）授業展開について

※①～⑤のような観点から授業実践の成果と課題を具体的に記述する。
①導入に段階
②課題の設定の段階
③課題追求の段階
④まとめの段階
⑤授業展開の成果と課題

（４）指導方法について

※①～⑤のような観点から指導方法の成果と課題を具体的に記述す 13 る。
①教師の質問・発問
②児童・生徒の対応
③教材教具の活用
④指導方法に関する成果と課題

（５）実習のまとめ

※自分自身の授業を省察し，成果と課題を整理し，記述する。

【留意点１】⑴～⑸の項目は，書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。
【留意点２】この最終報告会は，実習校で実施する。

（様式１－21）

令和　　年度

授業開発臨床実習Ａ報告

（実習校　　学校）

指導者

メンターティーチャー氏名	
指導教員（大学）氏名	

実習者　学籍番号（　　）

氏名（Ｍ２　　）

令和　年度「授業開発臨床実習Ａ」のポートフォリオ・ファイルです。
回覧及びご指導をお願いします。

	校長	教頭	教務主任	メンターティーチャー
印				

【留意点１】「基礎実習報告」「教育臨床実習Ａ報告」「授業開発臨床実習Ａ報告」のポートフォリオ・ファイルの表紙は，全てこの様式である。

【留意点２】この実習報告のポートフォリオ・ファイルには，実習計画，実習授業計画，毎回の記録（基礎実習 20 枚，教育臨床実習Ａ15 枚，授業開発臨床実習Ａ15 枚），単元指導計画，学習指導案，授業等の記録等を綴じて提出する。

尚，このファイルは２冊用意し，実習校へ１部，大学の指導教員に１部提出する。

2　現職院生対象の「学校教育臨床実習」

１　「基礎実習」（４単位，120 時間）

現職院生対象の「基礎実習」の内容は，ＳＭ院生対象のものと同一である。また，現職院生に限り「岐阜大学教職大学院における学校教育臨床実習及び特別支援学校臨床実習の単位認定に関する基準」に基づき，「基礎実習」にて養成すべき力量がこれまでの「教職経験」の中ですでに身についていると認定された場合は，これを既取得単位として取り扱う。

２「教育臨床実習Ｂ」（３単位，90 時間）

現職院生が行う「教育臨床実習Ｂ」では，教育臨床に関わる主任等（以下の４つ）に必要な能力開発のために，課題の分析と改善，ケース会議運営の実習から，課題を解決するための視点や方法を身につける。

（１）生徒指導主事(主任)・教育相談主任等
（２）道徳教育推進教師・道徳主任等
（３）特別活動主任等
（４）特別支援教育コーディネーター等

＊「ケース会議運営の実習」は一つのみ実施し，(1)～(4)を含むような形が望ましい（実習課題例参照）。

＜実習実施時期＞

・9 月に，教育臨床実習Ｂの事前指導を大学で行う。
・「教育臨床実習Ｂ」の実習実施時期は，基本的には１年次の後期に位置づけられるが，現職院生個々の履修計画に応じて１年次と２年次に分けて実施することや，更に，長期履修（３年間～４年間）制度を利用する場合は，３年次や４年次に実施することも考えられる。
・10 月～２月までの授業日においては，勤務と平行して実習を行う。
・12 月～１月の冬季休業中及びその前後は，数日間集中的に実習（職専免研修）を行う。

＜実習開始の手順＞

・現職院生が，自身の担当する授業科目の状況（担当学年，授業時数，時間割，空き時間など）と，下記の＜実習課題例＞を鑑みて「実習計画書」を作成し，大学の指導教員に提出する。
・大学の指導教員は，現職院生の所属校へ足を運び，管理職や現職院生と協議して，実習計画を確定する。
・実習計画には，授業日に勤務と平行して行う実習の時間と，冬季休業中及びその前後に集中的に行う実習（職専免研修）の時間との配分を明確にしておく。

＜実習報告書＞

【授業日に勤務と平行して行う実習】

・「教育臨床実習Ｂ」３単位（90 時間）のうち２単位（60 時間）を目安とする。

・ 実習課題（下記＜実習課題例＞を参考）の１課題に対して，６時間を１サイクルとして，以下の 1)～5)の手順に従い，それぞれについて AIMS で投稿する（様式 1-24 参照）。

1） 教育臨床資料収集：課題を一つ選び，それに関する資料を集める。

2） 教育臨床資料分析：実習課題を視点にして，教育臨床資料を分析する。

3） 自己提案Ａ：1），2）から，自己の教育臨床上の改善点・開発案（全校）を提案としてまとめる。

4） 自己提案Ｂ：1），2）から，自己の教育臨床上の改善点・開発案（学級等との関わり）をまとめる。

5） スクールミーティング：3),4)について口頭でメンターティチャー（実習校教員）に伝え，自己提案に関する指導・助言を受ける。

・１課題について 1)～5)のそれぞれについて AIMS で投稿（様式 1-24）し，大学の指導教員から指導・助言をうける。

・実習課題は，前半に分析・改善を中心とした６つの課題と，後半に開発を中心とした４つの課題との合計 10 課題について取り組むこととする。

【冬季休業中及びその前後に集中的に行う実習】

・「教育臨床実習Ｂ」３単位（90 時間）のうち１単位（30 時間）を目安とする。

・ 30 時間（４日間）の実習を集中して行い（職専免研修），実習期間中に最終報告会を行うこととする。

・ 30 時間（４日間）の実習内容としては，以下の例を参考に現職院生が自己の学修状況を鑑みて計画する（様式３－２参照）。

１）中間報告会⇒中間報告会を受けて課題を整理する（3 時間）。

２）ケース会議運営の準備（24 時間）

３）大学指導教員と資料の検討（3 時間）

＜実習課題例＞

＜前半（分析・改善）を中心に＞

「生徒指導・教育相談」

① 生徒指導主事（主任）等の仕事を分析し，改善点をまとめる。

② 教育相談主任等の仕事を分析し，改善点をまとめる。

「道徳教育」

③ 道徳教育推進教師・道徳教育主任等の仕事を分析し，改善点をまとめる。

「特別活動」

④ 特別活動主任等の仕事を分析し，改善点をまとめる。

「学校カウンセリング」

⑤ 特別支援教育コーディネーター等の仕事を分析し，改善点をまとめる。

⑥ 養護教諭・スクールカウンセラー・相談員等の仕事を分析し，改善点をまとめる。

＜ケース会議運営の実習（例：「いじめのケース会議の運営」）＞

学校内で，いじめの認知件数として市教育委員会に提出したケースについて，①このいじめのケースにどう関わっていくか（被害者・加害者），②まわりの子やクラス全体にどのように働きかけるか，③今後このようなことが起きないための予防策をどうとるか，という内容でケース会議を持つことになり，その運営をすることになった。

①は「生徒指導・教育相談」そのものであるが，個への関わりは「学校カウンセリング」を含んで

いる。②③には，学級活動(「特別活動」)や「道徳教育」が深く関係してくる。そこで，管理職を含む通常の生徒指導部会に，教育相談主任・特別支援教育コーディネーター・道徳教育推進教師・道徳教育主任・特別活動主任・養護教諭等を加えたケース会議を持つことにして，このチーム会議を運営することとした。
＜後半（開発）を中心に＞
「生徒指導・教育相談」
⑦ 生徒指導主事（主任）・教育相談主任等の仕事の分析・改善点から，開発案をまとめる。
「道徳教育」
⑧ 道徳教育推進教師・道徳教育主任等の仕事の分析・改善点から，開発案をまとめる。
「特別活動」
⑨ 特別活動主任等の仕事の分析・改善点から，開発案をまとめる。
「学校カウンセリング」
⑩ 特別支援教育コーディネーター等の仕事の分析・改善点から，開発案をまとめる。

＜報告会＞

・現職院生は，実習報告書を作成して大学の指導教員へ提出する。
・中間報告会は，現職院生と大学の指導教員が参加し，大学にて実施する。
・最終報告会は実習校の管理職(１名以上)，メンターティーチャー（１名以上），現職院生，大学の指導教員が参加し,実習校で実施する。

＜教育臨床実習の留意点＞

・【授業日に勤務と平行して行う実習】では，1 課題について，1)～4)について，それぞれ行った日に AIMS で投稿する（様式 1-24 参照）。
・【冬季休業中及びその前後の休日に集中的に行う実習】では，中間報告会を受けて整理した課題について，教育臨床上の改善案を作成したりするなど，実習記録の内容や書式は，実習内容に応じて工夫する。中間報告会や最終報告会の実施についても，自身の学修状況や学校の実態に応じて，より学修効果の上がる形態を工夫することとする。

現職院生対象の学校教育臨床実習の単位認定に関する評価基準

【教育臨床実習Ｂのねらい】

現職院生が行う「教育臨床実習Ｂ」では，教育臨床に関わる主任等（（１）生徒指導主事(主任)・教育相談主任等，（２）道徳教育推進教師・道徳主任等，（３）特別活動主任等，（４）特別支援教育コーディネーター等）に必要な能力開発のために，課題の分析と改善，ケース会議運営の実習から，課題を解決するための視点や方法を身につける。

評価項目	育成する資質・能力	実習内容	評価基準
学校の組織をふまえた生徒指導・教育相談に関する事項	生徒指導主事(主任)・教育相談主任等として学校の課題見抜き, 分析, 改善する力	・課題・現状分析 ・組織的な生徒指導体制の見直し ・教育相談の方法の見直し ・問題行動に関する事例研究の企画 ・ケース会議	Ｓ：複数の観点から，学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜き改善案を提案できた。 Ａ：学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜き改善案を提案できた。 Ｂ：学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜くことができた。 Ｃ：学校の現状分析ができた。 Ｄ：学校の具体的な現状分析ができなかった。
学校の教育目標をふまえた道徳教育に関する事項	道徳教育推進教師・道徳主任等として学校の課題見抜き，分析，改善する力	・課題・現状分析 ・道徳の全体計画・年間指導計画の見直し ・道徳の授業の研究会の企画・運営 ・ケース会議	Ｓ：複数の観点から，学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜き改善案を提案できた。 Ａ：学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜き改善案を提案できた。 Ｂ：学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜くことができた。 Ｃ：学校の現状分析ができた。 Ｄ：学校の具体的な現状分析ができなかった。
学校の教育目標をふまえた特別活動に関する事項	特別活動主任等として学校の課題見抜き, 分析, 改善する力	・課題・現状分析 ・学校の教育目標と特別活動の年間指導計画の見直し ・学級経営についての研修会の企画・運営 ・ケース会議	Ｓ：複数の観点から，学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜き改善案を提案できた。 Ａ：学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜き改善案を提案できた。 Ｂ：学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜くことができた。 Ｃ：学校の現状分析ができた。 Ｄ：学校の具体的な現状分析ができなかった。
学校の組織をふまえた学校カウンセリングに関する事項	特別支援教育コーディネーター等として学校の課題見抜き，分析，改善する力	・課題・現状分析 ・不登校事例等の検討会の企画・運営 ・いじめ・自殺予防に関する研修会の企画・運営 ・ケース会議	Ｓ：複数の観点から，学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜き改善案を提案できた。 Ａ：学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜き改善案を提案できた。 Ｂ：学校の現状分析ができ，課題や原因を見抜くことができた。 Ｃ：学校の現状分析ができた。 Ｄ：学校の具体的な現状分析ができなかった。

（様式１－22）

令和　　年度「教育実習Ｂ（現職院生用）」　実施計画書

実習者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　**実習校名**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【授業日に勤務と平行して行う実習】

回	月	期間	実習課題・実習内容	対象事案
	9	○○日	・事前指導	
1	10	○○日 ～ ○○日		
2	10	○○日 ～ ○○日		
3	11	○○日 ～ ○○日		
4	11	○○日 ～ ○○日		
5	12	○○日 ～ ○○日		
6	12	○○日 ～ ○○日		

【冬季休業中及びその前後に集中的に行う実習】（ケース会議の運営を含む）

7	1	○○日 ～ ○○日		
8	1	○○日 ～ ○○日		
9	2	○○日 ～ ○○日		
10	2	○○日 ～ ○○日		

【留意点１】メンターティーチャーと逐次加除・修正しながら計画・実施をする。

（様式１－23）

令和　　年度「教育臨床実習Ｂ（現職院生用）」　実施計画書

実習者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　**実習校名**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【冬季休業中及びその前後の休日に集中的に行う実習】

回	月	日	実習課題・実習内容	対象事案
1	12	○○日	ケース会議運営の準備（１）	
2	12	○○日	ケース会議運営の準備（２）	
3	1	○○日	ケース会議運営の準備（３）	
4	1	○○日	中間報告会を受けて課題を整理する。 資料の検討（大学指導教員と）	
			実習校におけるケース会議運営	

【留意点１】メンターティーチャーと逐次加除・修正しながら計画・実施をする。

（様式１－24）

AiMS Gifu2
20193CAC10190 › ディスカッション › 学校教育臨床実習（教育臨床実習B）：実習記録（日報）
2019年度（通年）
ホーム
アナウンス
課題
ディスカッション
成績
メンバー
ページ
ファイル
要綱
成果
クイズ
モジュール
設定
公開済み
編集
学校教育臨床実習（教育臨床実習B）：実習記録（日報）
3月5日 日 8.30
三島　晃陽
すべてのセクション
（例）
課題…生徒指導主事の仕事分析と改善案
１）資料収集
・過去5年間の変遷を分析するために、4月の職員会議の提案から指導の基本方針と全体計画とを収集した。
エントリまたは作成者を検索
未読です
購読済み
返信

（様式１－25）

「教育臨床実習Ｂ（現職院生）」中間報告書

実習者		実習校	学校

１０月～１２月の【授業日に勤務と平行して行う実習】を通して学んだことを，実習記録を基に整理するとともに，今後の授業開発における自己課題を明確にし，Ａ４・２ページ程度にまとめる。

（１）「生徒指導･教育相談」について

※学んだことを次のような項目で整理する
・組織的な生徒指導・教育相談体制の運営

（２）「道徳教育」について

※学んだことを次のような項目で整理する
・道徳教育の効果的な計画の立て方と，道徳授業の教材開発とその活用

（３）「特別活動」について

※学んだことを次のような項目で整理する
・学校の教育目標と特別活動の全体計画・年間指導計画の在り方

（４）「学校カウンセリング」について

※学んだことを次のような項目で整理する
・学校カウンセリングと，学校内外の組織との連携の在り方

【留意点１】（１）～（４）の項目は，書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。
【留意点２】中間報告の内容をもとに，【冬季休業中及びその前後の休日に集中的に行う実習】にて，教育臨床上の改善案を創り出し，１月以降の実践を通して検証する。

（様式１－26）

「教育臨床実習Ｂ（現職院生）」最終報告書

実習者		実習校	学校

中間報告会を通して学んだことをもとに新たに開発した教育臨床上の実践を分析・省察し，成果と課題を明確にし，Ａ４・２ページ程度にまとめる。

（１）「生徒指導･教育相談」について

（２）「道徳教育」について

（３）「特別活動」について

（４）「学校カウンセリング」について

（５）実習のまとめ

【留意点１】（１）～（５）項目は，書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。

（様式１－27）

令和　　年度

教育臨床実習Ｂ報告

（実習校　　学校）

指導者

メンターティーチャー氏名	
指導教員（大学）氏名	

実習者　学籍番号（　　）

氏名（Ｍ２　　）

令和　年度「教育臨床実習 B」のポートフォリオ・ファイルです。
回覧及びご指導をお願いします。

	校長	教頭	教務主任	メンターティーチャー
印				

【留意点１】「教育臨床実習Ｂ報告」「授業開発臨床実習Ｂ報告」のポートフォリオ・ファイルの表紙は，全てこの様式である。

【留意点２】この実習報告のポートフォリオ・ファイルには，実習計画，実習授業計画，毎回の記録，単元指導計画，学習指導案，授業等の記録等を綴じて提出する。なお，このファイルは２冊用意し，実習校へ１部，大学の指導教員に１部提出する。

３　「授業開発臨床実習Ｂ」（３単位，90 時間）

現職院生が行う「授業開発臨床実習Ｂ」では，自他の授業実践を先見的でグローバルな視点から省察し，今日的な課題を解決する開発的な授業を提案する実践を通じて，新たな単元構想や指導過程等を開発する力を伸ばす。

この実習においては，特に「教育課程を開発し，カリキュラムを運営する力（カリキュラム・マネジメント力）」「豊かな観(教材観，子ども観，指導観，評価観等)を構築し広げる力」「開発的な提案授業を実践・省察し，更なる課題を発見したり，校内研究を企画・運営したりする力」を育成する。

＜実習実施時期＞

・４月に，授業開発臨床実習Ｂの事前指導を大学で行う。
・「授業開発臨床実習Ｂ」の実習実施時期は２年次の４月～９月を基本とする。更に，長期履修（３年間～４年間）制度を利用する場合は，３年次や４年次に実施することも考えられる。
・４月～９月までの授業日においては，勤務と平行して実習を行う。
・７月～８月の夏季休業中は，数日間に渡って集中的に実習（職専免研修）を行う。

＜実習開始の手順＞

・現職院生が，自身の担当する授業科目の状況（担当学年，授業時数，時間割，空き時間など）と，下記の＜実習課題例＞を鑑みて「実習計画書」を作成し，大学の指導教員に提出する。
・大学の指導教員は，現職院生の所属校へ足を運び，管理職や現職院生と協議して，実習計画を確定する。
・実習計画には，授業日に勤務と平行して行う実習の時間と，夏季休業中に集中的に行う実習（職専免研修）の時間との配分を明確にしておく。

＜実習報告書＞

【授業日に勤務と平行して行う実習】
・「授業開発臨床実習Ｂ」３単位（90 時間）のうち２単位（60 時間）を目安とする。
・　実習課題（次頁＜実習課題例＞を参考）の１課題に対して，５時間を１サイクルとして，以下の 1)～4)の手順に従い，それぞれについて AIMS で投稿する（様式 1-30 参照）。
　1）授業資料収集：対象とする授業の資料（指導案，ＶＴＲ，アンケート等）を集める。
　2）授業資料分析：実習課題を視点にして授業資料を分析する。
　3）自己提案：1)，2)から，自己の授業改善，授業開発の視点や具体案を考える。
　4）スクールミーティング：3)について口頭でメンターティチャー（実習校教員）に伝え，自己提案に関する指導・助言を受ける。
・１課題について 1)～4)のそれぞれについて AIMS で投稿（様式 1-30）し，大学の指導教員から指導・助言をうける。このことを 12 の実習課題に対して取り組むこととする。
・自己の実践に限らず，他校の研究会等に参加し，そこで発表された授業実践を題材として，報告書をまとめることもあり得る。
・【夏季休業中に集中的に行う実習】との時間数の配分は，個人の学修状況によって臨機応変に変更することができる。また，【夏季休業中に集中的に行う実習】の学習を活かして【授業日に勤務と平行して行う実習】の一部を９月以降に実施することも可とする。

【夏季休業中に集中的に行う実習】
・「授業開発臨床実習Ｂ」３単位（90 時間）のうち１単位（30 時間）を目安とする。
・ 30 時間（４～５日間）の実習を集中して行い（職専免研修），最終報告会を行うこととする。
・ 【授業日に勤務と平行して行う実習】によって明確になった報告内容に対して，具体的な授業開発案や校内研究の改善案を作成し報告する。
・ 30 時間（４～５日間）の実習内容としては，以下の例を参考に現職院生が自己の学修状況を鑑みて計画する。

1) 自身の実践を先見的かつグローバルな視点から省察し，新たな課題を見出すことを通して，子どもに身に付けさせたい学力を捉え直すとともに，確かな観（教材観，子ども観，指導観，評価観等）を構築する。
2) ４月～７月に収集した自己の授業資料や自校の授業実践を，1)で得た確かな観から省察し，今度の授業開発の方向（カリキュラムマネジメント等）を明らかにする。
3) 1）で得た確かな『観』に基づき，新たな視点から子どもたちに身に付けさせた資質･能力を具体化し単元指導計画を開発する。
4) 開発した単元指導計画を基に，身に付けさせたい資質・能力を評価するための工夫（パフォーマンス評価等）や，子どもが主体的に資質・能力を高めるための学習活動を開発する。
5) 開発的な提案授業を実践し，子どもの学ぶ姿を省察して更なる課題を発見することができる校内研究を企画・運営する。

＜実習課題例＞

① 不易と流行の視点から，本時の教材のもつ普遍的な価値や本時のねらい
② 教育の今日的な動向（国や県の施策等）から捉えた，今後の授業づくりの課題
③ 資質能力の三本柱からの，授業における子どもの様相の分析
④ 個の学びに注目した，発話記録やノートへの記述内容，インタビュー等の分析・省察
⑤ 協働的な学びに注目した，子ども同士の関係や相互作用の分析
⑥ アクティブ・ラーニングの視点から自己の授業を分析して得た授業改善の方向
⑦ 深い学びを実現するためのカリキュラムマネジメントの具体
⑧ 子どもが主体的に学ぶ単位時間の新しい授業課程
⑨ 高次な学力を評価する「パフォーマンス評価，ポートフォリオ評価」の可能性
⑩ 既習内容を日常生活や今後の学習に結びつけ，新たな課題を発見する学習過程
⑪ 提案授業を基盤とし，参加者全員が主体的に取り組む全校研究会のあり方
⑫ 教員相互の日常的な談話や交流を通して，継続的に取り組む授業改善のあり方

＜報告会＞

・現職院生は，実習報告書を作成して大学の指導教員へ提出する。
・中間報告会は，現職院生と大学の指導教員が参加し，大学にて実施する。
・最終報告会は実習校の管理職（１名以上），メンターティーチャー（１名以上），現職院生，大学の指導教員が参加し,実習校で実施する。

＜授業開発臨床実習の留意点＞

・【授業日に勤務と平行して行う実習】では，1 課題について，1)～4)について，それぞれ行った日に AIMS で投稿する（様式 1-30 参照）。
・【夏季休業中に集中的に行う実習】では，開発的な授業提案や校内研究の改善案を提案するなど，実習内容に応じて実習記録の内容を工夫する。中間報告会や最終報告会の実施についても，自身の学修状況や学校の実態に応じて，より学修効果の上がる形態を工夫することとする。

現職院生対象の学校教育臨床実習の単位認定に関する評価基準

【授業開発臨床実習Ｂのねらい】

自他の授業実践を先見的にグローバルな視点から省察し，今日的な課題を解決する開発的な授業を提案する実践を通じて，新たな単元構想や単元指導過程を開発する力を伸ばす。

評価項目	育成する資質・能力	実習内容	評価基準
「教育課程の改編と評価」に関する事項	教育課程を開発し，カリキュラムを運営する（カリキュラム・マネジメント）力	・資料収集 ・資料分析 ・改善計画の作成 ・改善計画の提案	Ｓ：教育課程（研究構想）の改編について，今日的な課題を踏まえ分析から改善計画を作成し，全校に提案した。 Ａ：教育課程（研究構想）の評価分析をし，今日的な課題を踏まえた改善計画を作成した。 Ｂ：教育課程（研究構想）の評価分析をし，改善計画を作成した。 Ｃ：教育課程（研究構想）の評価分析をした。 Ｄ：教育課程（研究構想）の評価分析できなかった。
「先取的な単元構想と授業開発」に関する事項	開発的な単元を構想し，授業開発する力	・資料収集 ・資料分析 ・実態把握 ・改善計画の提案	Ｓ：開発的な単元を構想し，他学年や他教科及び領域の関連を図った授業開発と改善計画を全校に提案した。 Ａ：開発的な単元を構想し，他学年や他教科及び領域の関連を図った授業開発と改善計画を作成した。 Ｂ：開発的な単元を構想し，授業開発と改善を図った。 Ｃ：開発的な単元を構想し，授業開発をした。 Ｄ：開発的な単元を構想し，授業提案ができなかった。
「確かな教育観に基づく授業の設計と評価」に関する事項	確かな教育観を構築し，授業設計に反映し評価できる力	・資料収集 ・資料分析 ・改善計画の作成 ・改善計画の提案	Ｓ：児童生徒の実態について分析し，その分析に応じた授業設計や個に応じた指導方法の工夫を全校に提案した。 Ａ：児童生徒の実態について分析し，その分析に応じた授業設計や個に応じた指導方法の工夫を作成した。 Ｂ：児童生徒の実態について分析し，その分析に応じた授業を設計した。 Ｃ：児童生徒の実態について分析した。 Ｄ：児童生徒の実態について分析できなかった。
「授業の改善と省察」に関する事項	授業を省察し，更なる課題を発見したり，校内研究を企画・運営したりする力	・実践分析 ・改善計画の作成 ・改善計画の提案 ・授業研究の運営	Ｓ：開発的な授業提案と省察をし，活発な意見交流となる研究会の企画運営を提案した。 Ａ：開発的な授業提案と省察をし，校内研究を企画した。 Ｂ：開発的な授業提案と省察をし，改善案を作成した。 Ｃ：開発的な授業提案と省察をした。 Ｄ：開発的な授業提案と省察ができなかった。

（様式１－28）

令和　　年度「授業開発臨床実習Ｂ（現職院生用）」　実施計画書

実習者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　**実習校名**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【授業日に勤務と平行して行う実習】

回	月	期間	実習課題・実習内容	対象事案
	4	○○日	・事前指導	
1	4	○○日 ～ ○○日		
2	4	○○日 ～ ○○日		
3	4	○○日 ～ ○○日		
4	5	○○日 ～ ○○日		
5	5	○○日 ～ ○○日		
6	5	○○日 ～ ○○日		
7	6	○○日 ～ ○○日		
8	6	○○日 ～ ○○日		
9	6	○○日 ～ ○○日		
10	6	○○日 ～ ○○日		
11	7	○○日 ～ ○○日		
12	7	○○日 ～ ○○日		

【留意点１】メンターティーチャーと逐次加除・修正しながら計画・実施をする。

（様式１－29）

令和　　年度「授業開発臨床実習Ｂ（現職院生用）」　実施計画書

実習者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　**実習校名**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【夏季休業中に集中的に行う実習】

回	月	日	実習課題・実習内容	対象事案
1	7	○○日		
2	7	○○日		
3	8	○○日		
4	8	○○日		
5	8	○○日		

【留意点１】メンターティーチャーと逐次加除・修正しながら計画・実施をする。

（様式１－30）

20193CAC10180 › ディスカッション › 学校教育臨床実習（授業開発臨床実習B）：実習記録（日報）
2019年度（通年）
ホーム
アナウンス
課題
ディスカッション
成績
メンバー
ページ
ファイル
要綱
成果
クイズ
モジュール
設定
公開
編集
学校教育臨床実習（授業開発臨床実習B）：実習記録（日報）
3月5日 日 22.28
三島　晃陽
すべてのセクション
（例）
課題…教育の今日的な動向から捉えた，今後の授業づくりの課題
1)資料収集
学力の要素について、中教審答申、論点整理、PISA調査から学力のとらえについて資料を収集した。
エントリまたは作成者を検索
未読です
購読済み
返信

（様式１－31）

「授業開発臨床実習Ｂ（現職院生）」中間報告書

実習者		実習校	学校

４月～７月の【授業日に勤務と平行して行う実習】を通して学んだことを実習記録を基に整理するとともに，今後の授業開発における自己課題を明確にし，Ａ４・２ページ程度にまとめる。

（１）教材観，学力観について

※以下の項目内容を参考にして，各自で項目を整理してまとめる
①教育の今日的な課題から捉えた学力
②不易と流行の視点から捉えた授業づくりの課題
③教材のもつ普遍的な価値と深い学びを実現するためのカリキュラムマネジメント

（２）子ども観について

※以下の項目内容を参考にして，各自で項目を整理してまとめる
①資質能力の三本柱
②授業における子どもの様相の分析
③個の学びに注目した分析・省察

（３）指導観について

※以下の項目内容を参考にして，各自で項目を整理してまとめる
①協働的な学びに注目した，子ども同士の関係や相互作用
②アクティブ・ラーニングの視点から得た授業改善の方向
③子どもが主体的に学ぶ単位時間の新しい授業課程

（４）評価観について

※以下の項目内容を参考にして，各自で項目を整理してまとめる
①高次な学力を評価する「パフォーマンス評価，ポートフォリオ評価」の可能性
②授業で学びから新たな課題を発見する自己評価の在り方

（５）校内研究の改善について

※以下の項目内容を参考にして，各自で項目を整理してまとめる
①参加者全員が主体的に取り組む全校研究会のあり方
②教員相互の日常的な談話や交流を通して，継続的に取り組む授業改善のあり方

【留意点１】⑴～⑸の項目は，書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。
【留意点２】中間報告の内容をもとに，【夏季休業中に集中的に行う実習】にて，開発的な授業案や校内研究の改善案を創り出し，９月以降の実践を通して検証する。

（様式１－32）

「授業開発臨床実習Ｂ（現職院生）」最終報告書

実習者		実習校	学校

中間報告会を通して学んだことをもとに新たに開発した授業を示すとともに，実践を分析・省察し，成果と課題を明確にし，Ａ４・２ページ程度にまとめる。

（１）新たに開発した授業について

（２）授業の様子

（３）分析と省察

（４）成果と課題

【留意点１(1)～(4)項目は,書き方の例であるので，各自がまとめ方を工夫する。

（様式１－33）

令和　　年度

授業開発臨床実習Ｂ報告

（実習校　　学校）

指導者

メンターティーチャー氏名	
指導教員（大学）氏名	

実習者　学籍番号（　　）

氏名（Ｍ２　　）

令和　年度「授業開発臨床実習Ｂ」のポートフォリオ・ファイルです。
回覧及びご指導をお願いします。

	校長	教頭	教務主任	メンターティーチャー
印				

【留意点１】「教育臨床実習Ｂ報告」「授業開発臨床実習Ｂ報告」のポートフォリオ・ファイルの表紙は，全てこの様式である。

【留意点２】この実習報告のポートフォリオ・ファイルには，実習計画，実習授業計画，毎回の記録，単元指導計画，学習指導案，授業等の記録等を綴じて提出する。
　なお，このファイルは２冊用意し，実習校へ１部，大学の指導教員に１部提出する。

第３部　「特別支援学校臨床実習」

1　「特別支援学校臨床実習」の概要

１　「特別支援学校臨床実習」の目的

特別支援学校教育の領域で，学校組織の一員としての教師としての役割（校務分掌）を，自ら責任をもって遂行する実践力をつけるとともに，自らの特別支援教育を推進する能力を開発する。

(1)　ＳＭ院生・現職院生対象の「基礎実習」

基礎実習	(1) 岐阜県内の特別支援学校あるいは全国の特別支援学校研究会等への参観実習を通じて，インクルーシブ教育システム構築のためのスクールクラスターにおける特別支援学校の教育や役割を理解する。 (2) 連携協力校の運動会や学習発表会へのインターン実習を通じて，特別支援学校の教育目標を実現するための校務分掌等の組織のあり方を理解する。

(2)　ＳＭ院生対象の「教育臨床実習・授業開発臨床実習」

教育臨床実習Ａ	新任教員に必要な能力開発のために，特別支援学校に義務づけられている「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の立案と実践・評価の実習から，児童生徒一人一人に応じた教育支援の視点や方法を身に付ける。 (1)教育支援の立案：心理アセスメント，個別の指導計画の立案 (2)教育支援の実践：個別の指導計画に基づく実践展開 (3)教育支援の評価：実践評価と省察に基づく妥当化プロセス
授業開発臨床実習Ａ	新任教員に必要な能力開発のために，特別支援学校特有の指導形態である「教科・領域を合わせた指導」の生活単元学習や作業学習等の計画と実践・評価の実習から，児童生徒の学習支援の視点や方法を身に付ける。 (1)単元の計画：教育課程を踏まえた単元の計画 (2)授業の計画：授業の設計，展開，評価の計画 (3)授業の評価：実践評価と省察に基づく妥当化プロセス

(3)　現職院生対象の「教育臨床実習・授業開発臨床実習」

教育臨床実習Ｂ	支援部主任等に必要な能力開発のために，教育支援実践の分析と改善，ケース会議運営の実習から，教育支援の改善開発と関係者と連携して課題を解決するための視点や方法を身に付ける。 (1)教育支援実践の分析：教育支援の課題を見いだすための視点 (2)教育支援実践の改善：改善点を明らかにするための記録と分析方法 (3)ケース会議の運営：コーディネーションやファシリテーション
授業開発臨床実習Ｂ	研修部主任等に必要な能力開発のために，授業実践の分析と改善，授業研究運営の実習から，授業実践の改善開発と学習支援システム構築のための視点や方法を身に付ける。 (1)授業実践の分析：授業実践の課題を見いだすための視点 (2)授業実践の改善：改善点を明らかにするための記録と分析方法 (3)授業研究の運営：根拠に基づく説明や成果の共有方法

２　「特別支援学校臨床実習」の実施時期・場所等

科目	単位数 （単位時間）	時期	場所	特性
基礎実習	４単位 (120 時間)	１年次 ５～７月	岐阜県内特別支援学校	観察実習
		１年次 ９月	岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 （予定）	インターン実習

教育臨床 実習Ａ	３単位 (90 時間)	２年次 ９～11 月	岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 （予定）	開発臨床実習
授業開発 臨床実習Ａ	３単位 (90 時間)	２年次 ９～11 月	岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 （予定）	開発臨床実習

教育臨床 実習Ｂ	３単位 (90 時間)	２年次 ４～11 月	勤務校	開発臨床実習
授業開発 臨床実習Ｂ	３単位 (90 時間)	２年次 ４～11 月	勤務校	開発臨床実習

2　「特別支援学校臨床実習」の評価

１　実習における領域ごとの評価要素

基礎実習	１「学校の教育目標と教育課程」に関する事項 ２「学校組織と校務分掌」に関する事項 ３「児童生徒の理解」に関する事項 ４「校種や障害の理解」に関する事項

教育臨床 実習Ａ	１「教育支援の立案」に関する事項 ２「教育支援の実践」に関する事項 ３「教育支援の評価」に関する事項
授業開発 臨床実習Ａ	１「単元の計画」に関する事項 ２「授業の計画」に関する事項 ３「授業の評価」に関する事項

教育臨床 実習Ｂ	１「教育支援実践の分析」に関する事項 ２「教育支援実践の改善」に関する事項 ３「ケース会議の運営」に関する事項
授業開発 臨床実習Ｂ	１「授業実践の分析」に関する事項 ２「授業実践の改善」に関する事項 ３「授業研究の運営」に関する事項

2　実習評価表

実習校が作成した実習評価票（下記）に基づき，大学教員（研究者教員と実務家教員）が協議の上評価と単位認定を行う。

様式特1

令和　年度　【　ア　】

（　イ　）臨床実習評価票　　岐阜大学教職大学院

年	氏 名		専 攻	大学院教育学研究科 教職実践開発専攻（教職大学院）
実 習 校 名	立　学校		配属学級等	
実習期間	平成　年　月　日（　）～　平成　年　月　日（　）			
総出席日数（　）日×8時間＝（　）時間		遅刻回数（　）回（　時間）		
欠席日数等（　）日×8時間＝（　）時間		早退回数（　）回（　時間）		

実施した授業等の時数（教科・領域・その他）		
		時間
		時間
		時間
		時間
	合　計	時間

提出物確認	□ 臨床実習計画　□ 臨床実習記録（　枚）　□ 臨床実習実施報告書
所見	

種別		評 価 要 素	評 定
イ	1		S　A　B　C　D
	2	ウ	S　A　B　C　D
	3		S　A　B　C　D
	4		S　A　B　C　D

総合評価	S（秀）　A（優）　B（良）　C（可）　D（不可）	メンターティーチャー	印
		メンターティーチャー	印

岐阜大学教育学研究科　教職実践開発専攻代表　様

以上のとおり評価しましたので報告します。

平成　年　月　日

実習校

校 長　　印

＜判定＞　上記の臨床実習について次のとおり判定する。（S、A、B、Cは単位認定、Dは単位認定不可）

判定	S（秀）　A（優）　B（良）　C（可）　D（不可）	（所見）

平成　年　月　日

実務家教員　　印

研究者教員　　印

３　「基礎実習」における単位認定について（※現職院生のみ対象）

「現職院生」の「基礎実習」については，「岐阜大学教職大学院における学校教育臨床実習及び特別支援学校臨床実習の単位認定に関する基準」により特別の規定が設けられている。その概要は，次の通りである。

○「現職院生」については，その「教職経験」の内容を審査の上で，「基礎実習」の単位を既に取得したものと見なすことができる。
○「基礎実習」を既取得と見なすことを希望する者は，「(経歴の）基準」を満たすことを証明する書面，「教職経験に係る実績報告書」及び各人や各校の実情に応じて「基礎実習」の内容に対応すると考えうる実践経験を記述した関連資料を添えて，研究科長に申請するものとする。
○ 岐阜大学教職大学院運営委員会は，提出書類に基づいて認定評価の可否を審査し，その結果に基づき「基礎実習」を既取得とみなし，これを既取得単位として取り扱う。

この規定に基づき，「基礎実習」の認定評価に関する基準を以下に定める。現職院生は以下の基準に適応する教職経験を「別紙１」にまとめ，根拠資料を添付して，指定された期日までに提出する。

【「基礎実習（特別支援学校臨床実習)」の認定評価に関する基準】
１　学校の教育目標と教育課程に関する事項
・勤務した学校において，担任として，教育活動を行った実績
２　学校組織と校務分掌に関する事項
・勤務した学校において，校務分掌（所属した各種委員会や担当した主任等）の役割を自覚し，学校の運営にかかわった実績
３　児童生徒の理解に関する事項
・勤務した学校において，児童・生徒の実態に応じて行った教育支援の実績
４　校種や障害の理解に関する事項
・幼児部，小学部，中学部，高等部あるいは視覚障害，聴覚障害，知的障害，肢体不自由，病弱に関する複数の校種や障害に関する教育活動の実績

別紙１（「基礎実習（特別支援学校臨床実習)」単位の認定評価に関する提出書類）

令和○年○月○日

岐阜大学大学院教育学研究科長　殿

氏名　○○　○○

岐阜大学教職大学院における学校教育臨床実習及び特別支援学校臨床実習の単位認定に関する基準４条に基づき，「基礎実習」を既取得とみなしていただきますよう申請します。

教職経験に係る実績報告書

Ⅰ「基礎実習」の認定評価に関する基準

１　学校の教育目標と教育課程に関する実績

２　学校組織と校務分掌に関する実績

３　児童生徒の理解に関する実績

４　校種や障害の理解に関する実績

（様式特２）　「基礎実習」単位の認定評価に関する提出書類

Ⅱ「基礎的な経歴」（本人記載）

学籍番号（　　）

在 籍 校（　　学校　）　氏名（　　）（　　）歳

※教職大学院に入学する直前の3月31日現在の状況で記入する

○所有免許状　小（　）種，中（　）種　（　　），高（　）種　（　　），
特別支援学校（　　）種（　）

○校種経験　小学校（　　年）　中学校（　　年）
高等学校（　　年）　特別支援学校（　　年）
※特別支援学校の場合　経験のある項目に○印をつける
（視覚障害，聴覚障害，知的障害，肢体不自由，病弱）

○教育行政経験　有　（部局名　　年）

○経歴　※有りの場合，○印をつけ，通算年数等を記入。

主任歴	教務主任	有（　　年）
	生徒指導主事	有（　　年）
	学年主任	有（　　年）
	保健主事	有（　　年）
	進路指導主事	有（　　年）
	寮務主事（高・特のみ）	有（　　年）
	学科主任（高・特のみ）	有（　　年）
	図書主任（高・特のみ）	有（　　年）
	農場長（高のみ）	有（　　年）
その他の主任等歴	研究主任	有（　　年）
	教科主任	有（　　年）
	委員長・部会等の長	有（　　年）
	その他特記すべき主任等	有（　　年）
	（　　）	有（　　年）
	（　　）	有（　　年）
教育実習生の指導経験		有（　　回　　人）

部活動（クラブ）に関する特記すべき実績
・○○大会優勝

教育実践記録に関する特記すべき実績
・○○賞

校外（市町村，県，全国）の研究会や学会等での特記すべき役職経験・発表実績
・○○大会の○○分科会の発表者

学級担任歴（※担任したところに○印をつける）

小学校	1	2	3	4	5	6	特学
中学校	1	2	3	特学			
高等学校	1	2	3				
特別支援学校	小学部	中学部	高等部				

○　現職院生対象の「（特別支援学校）教育臨床実習・授業開発臨床実習」

教育臨床実習B	支援部主任等に必要な能力開発のために，教育支援実践の分析と改善，ケース会議運営の実習から，教育支援の改善開発と関係者と連携して課題を解決するための視点や方法を習得する。			
	育成する資質能力		実習内容	評価
	(1) 教育支援実践の分析力	支援部主任等の職務を理解する。	①職務分析 ・資料収集 ・資料分析	S：複数の観点から，支援部主任等の職務を理解し，成果と課題を明らかにした。 A：支援部主任等の職務を理解し，成果と課題を明らかにした。 B：支援部主任等の職務を理解した。 C：支援部主任等の職務を分析した。 D：支援部主任等の職務を理解できなかった。
	(2) 教育支援実践の改善力	改善計画の作成と実行評価から教育支援やシステムに関する改善提案ができる。	②実践分析 ・改善計画の作成 ・改善計画の実行評価	S：教育支援やシステムに関する開発的提案をした。 A：教育支援やシステムに関する改善提案をした。 B：教育支援に関する改善提案をした。 C：改善計画を実行評価した。 D：改善計画を実行できなかった。
	(3) ケース会議の運営力	関係者と連携した課題解決のためのコーディネーションやファシリテーションの視点や方法を習得する。	③ケース会議の運営	S：目的に沿って，コーディネーションやファシリテーションを行い，課題を改善した。 A：目的に沿って，コーディネーションやファシリテーションを行い，課題を整理した。 B：目的に沿って，コーディネーションやファシリテーションを行うための視点や方法を明らかにした。 C：ケース会議を行い，成果と課題を検討した。 D：ケース会義を行わなかった。

授業開発臨床実習B	研修部主任等に必要な能力開発のために，授業実践の分析と改善，授業研究運営の実習から，授業実践の改善開発と学習支援システム構築のための視点や方法を修得する。			
	育成する資質能力		実習内容	評価
	(1)授業実践の分析力	研修部主任等の職務を理解する。	①職務分析 ・資料収集 ・資料分析	S：複数の観点から，研修部主任等の職務を理解し，成果と課題を明らかにした。 A：研修部主任等の職務を理解し，成果と課題を明らかにした。 B：研修部主任等の職務を理解した。 C：研修部主任等の職務を分析した。 D：研修部主任等の職務を理解できなかった。
	(2)授業実践の改善力	改善計画の作成と実行評価から学習支援やシステムに関する改善提案ができる。	②実践分析 ・改善計画の作成 ・改善計画の実行評価	S：学習支援やシステムに関する開発的提案をした。 A：学習支援やシステムに関する改善提案をした。 B：学習支援に関する改善提案をした。 C：改善計画を実行評価した。 D：改善計画を実行できなかった。
	(3)授業研究の運営力	根拠に基づく説明や成果の共有のための視点や方法を習得する。	③授業研究の運営	S：根拠に基づいて成果と課題を説明し，関係者と共有し，課題を改善した。 A：根拠に基づいて成果と課題を説明し，関係者と共有し，課題を整理した。 B：根拠に基づいて成果と課題を説明し，関係者と共有するための視点や方法を明らかにした。 C：授業研究を行い，成果と課題を検討した。 D：授業研究を行わなかった。

3 「特別支援学校臨床実習」の展開

1 「基礎礎実習」（４単位，120 時間）

(1) 特別支援学校教員としての職務内容を理解し，必要な資質・能力の力量をつける。
(2) インクルーシブ教育システム構築のためのスクールクラスターにおける特別支援学校の教育や役割を理解する。
(3) 特別支援学校の教育目標を実現するための校務分掌等の組織のあり方を理解する

【基礎実習　実習課題】

(1) スクールクラスターにおける特別支援学校の教育や役割の理解
（１年次５月～７月　30 時間）
・県内の特別支援学校 10 校程あるいは全国的研究会等に参加する。
・就学指導から教育支援への制度転換における特別支援学校の機能の変化について，現状と課題を分析し，毎回レポートを提出する。

＜例＞
①障害種別による障害の状況の把握
②障害の状況や部に応じた教育課程の工夫
③児童生徒の実態に応じた指導の配慮
④時間割の工夫
⑤児童生徒への働きかけの配慮
⑥ＴＴの在り方について
⑦教材や教具の工夫
⑧教育機器の活用
⑨児童生徒の主体的な活動に対する配慮
⑩集団指導と個別指導
⑪意欲を高める指導の工夫
⑫評価の在り方
⑬キャリア教育
⑭センター的役割

(2) 学校行事における教務部を中心とした校務分掌の理解（９月　90 時間）
・連携協力校における運動会や学習発表会に参加する。
・以下の視点から現状と課題を明らかにする。
＜例＞
①校務分掌組織の工夫
②部，学年と校務分掌組織との関係
③校務分掌業務
④学校行事と校務分掌との関わり
⑤教育目標，教育計画との関係
⑥研究推進や教育課題との関わり
⑦危機管理の在り方，緊急時対応との関連

２　「教育臨床実習Ａ」（３単位，90 時間）

新任教員に必要な能力開発のために，特別支援学校に義務づけられている「個別の指導計画や個別の教育支援計画」の立案と実践・評価の実習から，児童生徒一人一人に応じた教育支援の能力開発のための視点や方法を身に付ける。

(1) 教育支援の立案：心理アセスメント，個別の指導計画の立案
(2) 教育支援の実践：個別の指導計画に基づく実践展開
(3) 教育支援の評価：実践評価と省察に基づく妥当化

【教育臨床実習Ａ　実習課題】

(1)教育支援の概要理解
①対象児童生徒の決定
②個別の教育支援計画・個別の指導計画の確認
③校内支援システムの概要理解
④実習計画の立案

(2)教育支援の実際
①アセスメントの実施と解釈
②教育支援の仮説の策定
③支援計画の立案

(3)教育支援の実践
①支援の実施
②記録・分析・評価
③支援計画の修正
④支援の実施
⑤記録・分析・再評価

(4)教育支援の評価
①支援計画の省察
②個別の教育支援計画・個別の指導計画の省察
③校内支援システムの省察

【教育臨床実習Ａ　実習展開】

月	実習項目	実習内容
9	(1)教育支援の概要理解 ①対象児童生徒の決定 ②個別の教育支援計画・個別の指導計画の確認 ③校内支援システムの概要理解 ④実習計画の立案 (2)教育支援の実際 ①アセスメントの実施と解釈 ②教育支援の仮説の策定 ③支援計画の立案	(1)教育支援の概要理解 ・メンター教員，その他学年・学級所属教員等に相談し，保護者の了解を得て，対象とする児童生徒を決定する。 ・対象児童生徒の個別の指導計画・個別の教育支援計画により支援の方針等を確認する。 ・支援センター部長の講話を聞き，校内の支援システムと校外の支援システム の概要について理解する。 ・実習計画を立案する。 (2)教育支援の実際 ・メンター教員と共にアセスメント等を実施し，対象児童生徒の状態を把握する。 ・分析した結果をもとに，支援仮説を立案する。 ・支援計画を立案する。 ＜支援課題例＞自立活動，日常生活の指導等
10	(3)教育支援の実践 ①支援の実施 ②記録・分析・評価 ③支援計画の修正 ④支援の実施 ⑤記録・分析・再評価	(3)教育支援の実践 ・立案した支援計画を実践する。 ・支援経過を記録する。 ・支援記録をもとに，メンター教員，その他学年・学級所属教員と共に対象児童生徒への支援を評価する。 ・評価の結果，支援に変更が必要な場合は，その都度修正し，実践していく。 ・修正した支援計画を実践し，再度分析，再度評価を繰り返す。
11	(4)教育支援の評価 ・支援計画の省察 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の省察 ・校内支援システムの省察	(4)教育支援の評価 ・実践してきた支援計画の成果と課題を明確化する。 ・実践をもとに個別の指導計画・教育支援計画に省察する。 ・実践をもとに校内支援システムを省察する。

【備　考】
・体験入学等への参加
・校内のケース会議への参加
・校外支援（小学校・中学校・高等学校等）へも可能であれば随行

３　【授業開発臨床実習Ａ】（３単位，90 時間）

新任教員に必要な能力開発のために，特別支援学校特有の指導形態である「教科・領域を合わせた指導」の生活単元学習や作業学習等の計画と実践・評価の実習から，児童生徒の学習支援の能力開発のための視点や方法を身に付ける。

(1) 単元の計画：教育課程を踏まえた単元の計画
(2) 授業の計画：授業の設計，展開，評価の計画
(3) 授業の評価：実践評価と省察に基づく妥当化

【授業開発臨床実習Ａ　実習課題】

(1)授業開発の概要理解
①授業開発臨床実習の目標と実習計画の理解
②目標達成のための課題の明確化
③配属学部・学級の経営方針や状況の理解
④実習計画の立案

(2)教育課程の実際
①教育課程の理解
②週時程，年間計画，指導体制等の検討

(3)生活単元学習又は作業学習の単元計画の実際
①単元設定の検討
②日程計画の検討

(4)授業の設計と評価の実際
①活動内容，場の工夫，補助具の工夫，教師の動き，個と集団，評価の観点等

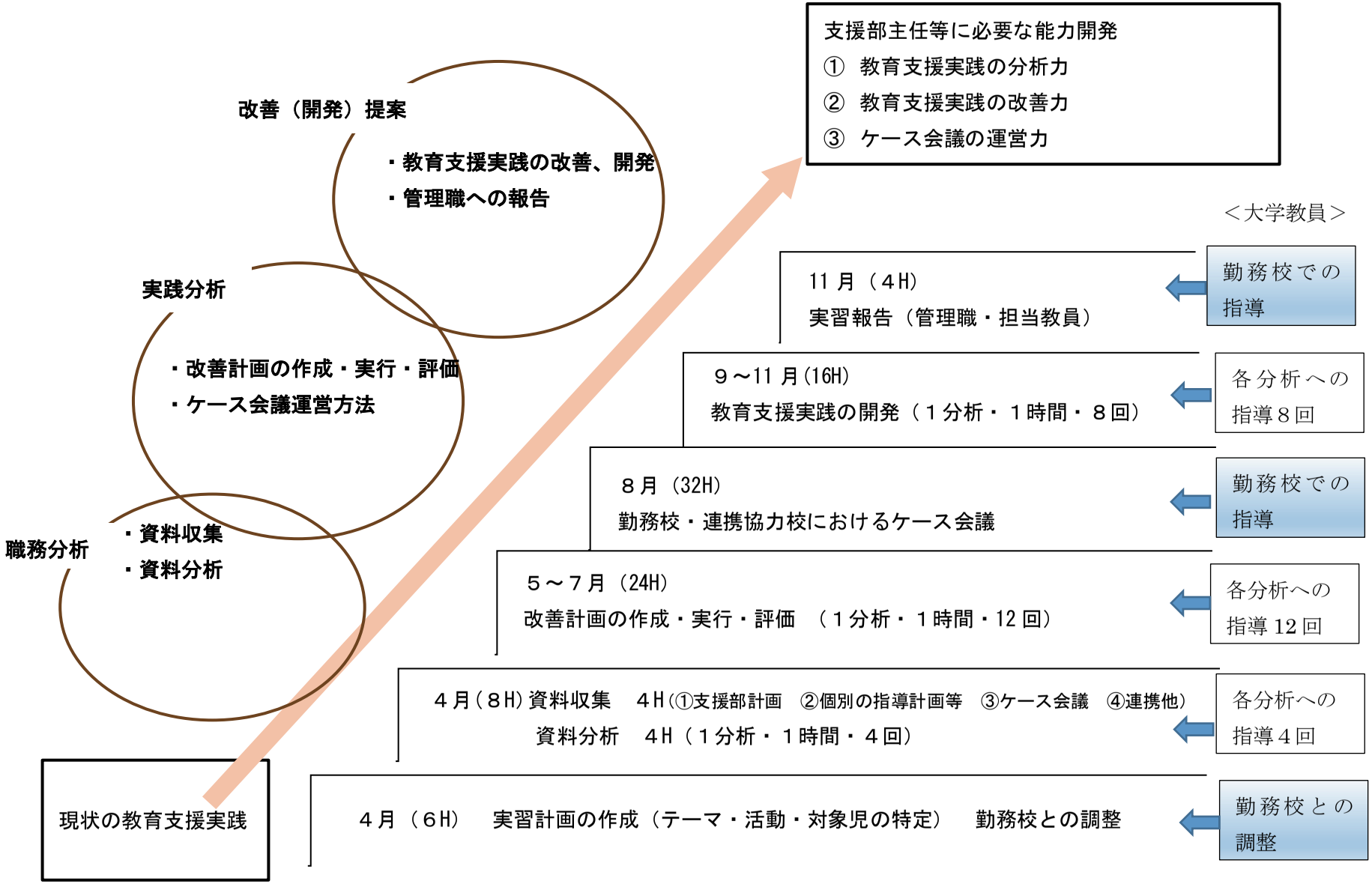
(5)授業の実際
①事前検討
②副授業者としての実施
③主授業者としての実施
④研究授業の実施
⑤授業研究と省察

【授業開発臨床実習Ａ　実習展開】

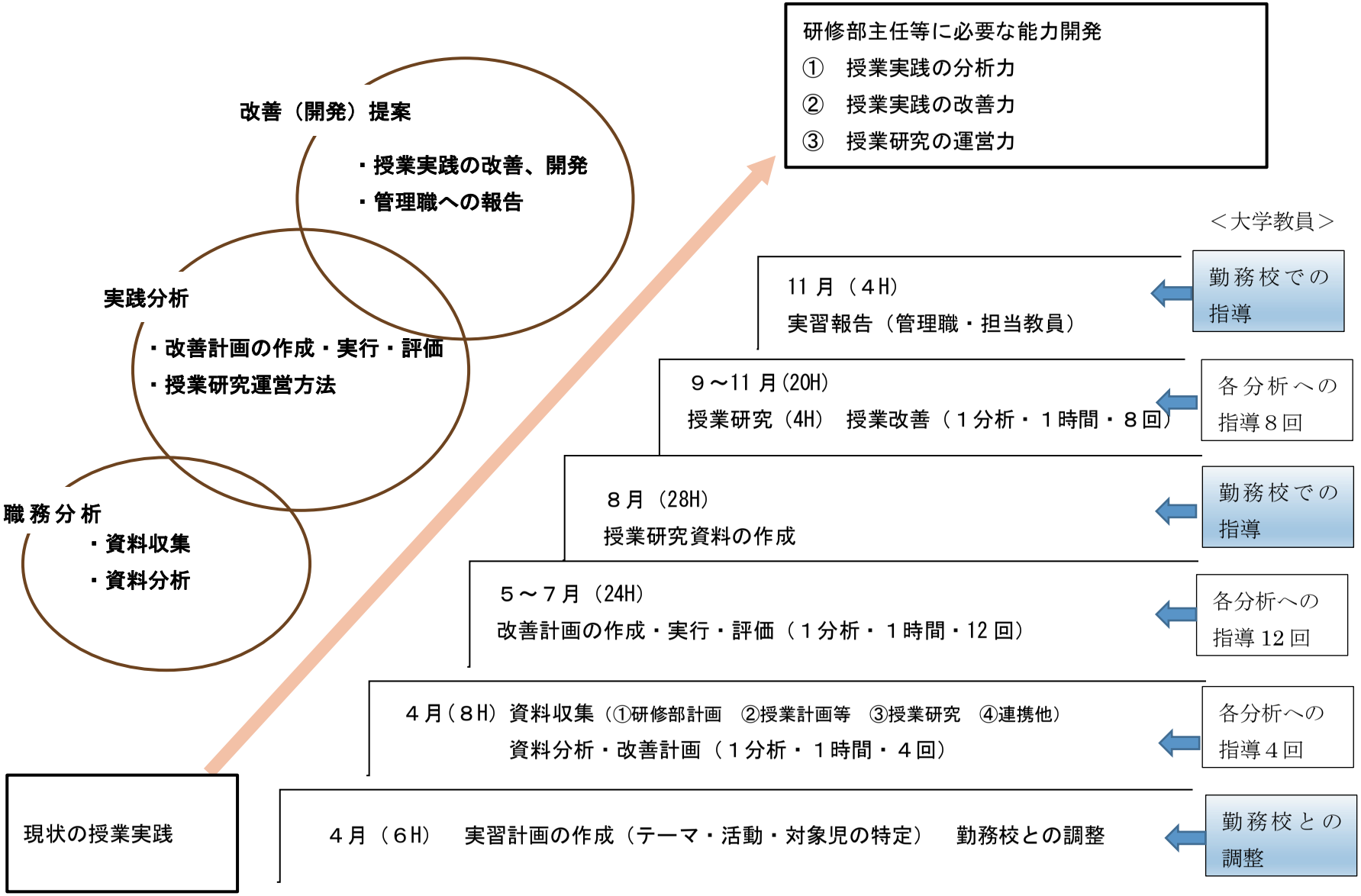
月	実習項目	実習内容
9	(1)授業開発の概要理解 ①授業開発臨床実習の目標と実習計画の理解 ②目標達成のための課題の明確化 ③配属学部・学級の経営方針や状況の理解 ④実習計画の立案 (2)教育課程の実際 ①教育課程の理解 ②週時程，年間計画，指導体制等の検討	(1)授業開発の概要理解 ・メンター教員，学級担任，授業担当者，その他関係教職員等との共通理解を図る（実習計画，目標達成のための課題，学級の経営方針，児童生徒の状況等）。 ・部主事の講話を聞き，学部の経営方針・状況等を理解する。 ・研究部長の講話を聞き，主題研究について理解する。 ・授業参観，副授業者として授業参加することにより，具体的な指導について理解する。 ・担当する教科・領域等及びその単元を決定する。 (2)教育課程の実際 ・教務主任の講話を聞き，教育課程の実際について理解する。 ・週時程，年間計画，指導体制等について学部教務・教務主任と共に検討する。
10	(3)生活単元学習又は作業学習の単元計画の実際 ①単元設定の検討 ②日程計画の検討 (4)授業の設計と評価の実際 ①活動内容，場の工夫，補助具の工夫，教師の動き，個　と集団，評価の観点等	(3)生活単元学習又は作業学習の単元計画の実際 ・メンター教員，学級担任，授業担当者，その他関係教職員等と共に単元設定の在り方，日程計画等について検討する。 (4)授業の設計と評価の実際 ・活動内容等の在り方について検討する。 ・授業参観，副授業者として授業参加することにより，活動内容，補助具の工夫等について検討する。 ・評価について検討する。
11	(5)授業の実際 ①事前検討 ②副授業者としての実施 ③主授業者としての実施 ④研究授業の実施 ⑤授業研究と省察	(5)授業の実施 ・メンター教員，学級担任，授業担当者，その他関係教職員等と共に単元目標・本時の目標，個々のねがい等を検討する。 ・事前準備（教材研究，教材教具の開発等）をする中で教材研究，教材教具の開発の在り方等を具体的に理解する。 ・メンター教員等の行う授業を通して，指導方法等を具体的に学ぶ。 ・支援案を作成し，授業を行う。 ・授業研究（事後研）を通して，課題を明確化し，次時の指導方法を省察する。

【備　考】
・研究授業の実施（略案，細案）
・研究会への参画
・校内作業実習・産業現場等における実習への参画

教育臨床実習Ｂ（特別支援学校）3 単位（90H）



授業開発臨床実習Ｂ（特別支援学校）３単位（90H）



４　【教育臨床実習Ｂ】（３単位，90 時間）

支援部主任等に必要な能力開発のために，教育支援実践の分析と改善，ケース会議運営の実習から，教育支援の改善開発と関係者と連携して課題を解決するための視点や方法を身に付ける。

(1) 教育支援実践の分析：教育支援の課題を見いだすための視点
(2) 教育支援実践の改善：改善点を明らかにするための記録と分析方法
(3) ケース会議の運営：コーディネーションやファシリテーション

【教育臨床実習Ｂ　実習課題例】

(1)教育支援実践の分析
①今日の教育課題（教育を受ける権利の保障，合理的配慮等）
②教育的ニーズの検討（学校生活，家庭生活，将来生活等）
③心理アセスメントと分析（資料分析，聞き取り，行動観察，心理検査等）
④支援目標の検討（短期・長期，スモールステップ等）
⑤支援方法の検討（環境整備，強化の原理，プロンプト等）
⑥評価方法の検討（記録・分析方法，実践の評価，学習の評価等）
⑦支援体制の検討（時間，場面，活動，役割分担等）
⑧関係者との連携（教師の連携，関係機関との連携，保護者との協力関係の形成等）

(2)教育支援実践の改善
①改善のための記録，分析方法
②評価に基づく実践の改善
③関係者との連携

(3)ケース会議の運営
①コーディネーション
②視点を明らかにした資料作成
③根拠に基づく説明
④ファシリテーション
⑤校内支援システム

(4)教育支援の開発→開発実践報告

【教育臨床実習Ｂ　実習展開】

月	時間	実習項目	実習内容	指導者・備考
4	6 8	オリエンテーション 教育支援実践の分析	・実習概要の理解(2H) ・実習計画の作成(2H) ・実習校における打ち合わせ(2H) ・以下の視点から課題を検討し，AIMS に投稿する。 ①今日の教育課題の検討 ②教育的ニーズの検討 ③アセスメントと分析 ④支援目標の検討 ⑤支援方法の検討 ⑥評価方法の検討 ⑦支援体制の検討 ⑧関係者との連携	・大学指導教員 ・大学指導教員 （１分析・１時間，８回）
5 ～ 7	24	教育支援実践の改善	・教育支援を実践する。 ・以下の視点から課題を検討し，AIMS に投稿する。 ・対面で大学指導教員の指導を受け改善方略を検討する。 ①改善のための記録，分析方法 ②評価に基づく実践の改善 ③関係者との連携	・大学指導教員 （１分析・１時間，週１回，12 回） ・大学指導教員 （週１回，12 回）
8	32	ケース会議・中間報告	・ケース会議資料の作成(24H) ・大学における資料の検討(4H) ・実習校におけるケース会議(4H) ①コーディネーション ②視点を明らかにした資料作成 ③根拠に基づく説明 ④ファシリテーション ⑤校内支援システム	・大学指導教員 ・管理職，学校担当教員
9 ～ 11	16 4	教育支援実践の開発 最終報告	・改善した教育支援を実践する。 ・課題を検討し，AIMS に投稿する。 ・対面で大学指導教員の指導を受け改善方略を検討する。 ①教育支援の計画 ②教育支援の実践 ③関係者との連携 ・実習校における報告 教育支援実践を向上させるための開発的内容を提案する。	・大学指導教員 （１分析・１時間，週１回，８回） ・大学指導教員 （週１回，８回） ・大学指導教員 管理職，学校担当教員

５　【授業開発臨床実習Ｂ】（３単位，90 時間）

研修部主任等に必要な能力開発のために，授業実践の分析と改善，授業研究運営の実習から，授業実践の改善開発と学習支援システム構築のための視点や方法を身に付ける。

(1) 授業実践の分析：授業実践の課題を見いだすための視点
(2) 授業実践の改善：改善点を明らかにするための記録と分析方法
(3) 授業研究の運営：根拠に基づく説明や成果の共有方法，学習支援システム

【授業開発臨床実習Ｂ　実習課題例】

(1)授業実践の分析
①今日の教育課題（児童生徒の主体的な取り組み，生活中心等）
②教育課程と単元計画の整合性（教育目標や年間計画等）
③児童生徒の状態と題材の整合性（教育的ニーズ，教育活動等）
④授業目標・展開・評価の整合性（目標と展開，授業の評価，学習の評価等）
⑤児童生徒の自発的行動を促す支援方法（環境設定，機会設定等）
⑥児童生徒一人一人に応じた支援（教材，プロンプト等）
⑦授業と個別の指導計画との整合性（目標設定，学校生活等）
⑧関係者との連携（チームティーチング，保護者への説明等）

(2)授業実践の改善
①評価に基づく授業実践の改善
②児童生徒一人一人に応じた支援
③関係者との連携

(3)授業研究の運営
①視点を明らかにした資料作成
②根拠に基づく説明
③成果の共有方法
④学習支援システム

(4)授業実践の開発→開発実践報告

【授業開発臨床実習Ｂ　実習展開】

月	時間	実習項目	実習内容	指導者・備考
4	6	オリエンテーション	・実習計画の作成(4H) ・実習校における打ち合わせ(2H)	・大学指導教員
	8	授業実践の分析	・以下の視点から課題を検討する。 ①今日の教育課題 ②教育課程と単元計画の整合性 ③児童生徒の状態と題材の整合性 ④授業目標・展開・評価の整合性 ⑤児童生徒の自発的行動を促す環境設定と支援方法 ⑥児童生徒一人一人に応じた支援 ⑦授業と個別の指導計画との整合性 ⑧関係者との連携	・大学指導教員 （１分析・１時間，８回）
5～7	24	授業実践の改善	・検討した授業計画を実践する。 ・以下の視点から課題を検討し，AIMS に投稿する。 ・対面で大学指導教員の指導を受け改善方略を検討する。 ①評価に基づく授業実践の改善 ②児童生徒一人一人に応じた支援 ③関係者との連携	・大学指導教員 （１分析・１時間，週１回，12 回） ・大学指導教員 （週１回，12 回）
8	28	授業研究	・授業研究資料の作成(24H) ・大学における資料の検討(4H)	・大学指導教員
9～11	20	授業研究・中間報告	・実習校における授業研究(4H) ①視点を明らかにした資料作成 ②根拠に基づく説明 ③成果の共有方法 ④学習支援システム	・大学指導教員 管理職，学校担当者
		授業実践の開発	・改善した授業を実践する。 ・課題を検討し，AIMS に投稿する。 ・対面で大学指導教員の指導を受け改善方略を検討する。	・大学指導教員 （１分析・１時間，週１回，８回） ・大学指導教員 （週１回，８回）
	4	最終報告	・実習校における最終報告 授業実践を向上させるための開発的内容を提案する。	・大学指導教員 管理職，学校担当者

4 「特別支援学校臨床実習」で使用する様式

（様式特３－１）

【基礎実習】学校参観記録

実習者　　実習校

月	日	曜	学校	実習課題・実習内容	時間
５					

【基礎実習】学校行事記録

月	日	曜	学校行事	実習課題・実習内容	時間
９					

（様式特３－２）

【教育臨床実習Ａ】実習計画

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

月	週	教育臨床実習Ａ
9	事前 指導	
10		
11		
	事後 指導	

（様式特３－３）

【授業開発臨床実習Ａ】実習計画

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

月	週	授業開発臨床実習Ａ
9	事前指導	
10		
11		
	事後指導	

（様式特３－４）

【教育臨床実習Ａ】実習記録

<table>
<tr><td>月</td><td>日</td><td>曜日</td><td colspan="2">実習者〔　　〕</td></tr>
<tr><td colspan="2">本時の目標</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td></td><td>教科等</td><td>学　級</td><td colspan="2">内　容　等</td></tr>
<tr><td>第１時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第２時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第３時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第４時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>給　食</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第５時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>第６時限</td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>成果と
課題</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">大学指導
教員所見</td><td colspan="3" rowspan="2"></td><td>メンター教員</td></tr>
<tr><td>印</td></tr>
</table>

（様式特３－５）

【授業開発臨床実習Ａ】授業記録

月　日	学級	年　組	教科等		授業者	
本時のねがい						
時　配	児童生徒の活動		支援上の留意点		道具等	

部主事	印	教務	印	担当	印

学習支援案の様式（１）

Ｔ１などの明記は支援案（３）に

○学部○年　「○○学習」（○班）学習支援案

日　時：令和○○年○月○○日（○）
　　○○：○○～○○：○○
場　所：○○○
授業者：○学部　○○学級　全職員

児童数：男子○名　女子○名
(生徒数)

単元名は、できるだけ児童・生徒が口ずさみやすい表現に。主な活動がイメージしやすいように。

１　単元名

「○○○○○○○」

【例１】「キラキラ☆ランド」
【例２】「中学部のお店　ＣＨＵストア」を開こう

２　単元について

【例１】
本単元は、・・・教室に設置されたみんなで遊べる宇宙をイメージした遊び場「キラキラ☆ランド」で、毎日思いっきり遊び、フェスタ当日は、自分たちは元より、他学年の友だちや他のお客さんとも楽しく遊ぼうというものである。

みんなの笑顔がキラキラ☆
・・・いつも生活している教室を、キラキラの星をちりばめられたみんなの大好きな滑り台などで遊べる「キラキラ☆ランド」に変身させる。そして、フェスタに向かって学校全体が「キラキラ」していくなかで、子どもたちみんなの笑顔がキラキラ☆のように輝くよう、思いっきり遊んでいきたい。

キラキラ☆の宇宙空間
今回の単元では子どもたちの期待がより大きいものとなるよう、教室から少し離れた一室を模様替えした「キラキラ☆ステーション」に、毎時間の最初に集合し、宇宙服に着替え、それぞれお手製の宇宙船に乗り込むようにした。・・・

毎日みんなでキラキラ☆
単元初日から気分を盛り上げて遊べるように、宇宙服と宇宙船は用意しておく。また午後からの図工の時間には、自分の宇宙船にお気に入りの飾りを付けたり、部屋内をより宇宙空間に近づけるための飾りを作ったりと、「キラキラ☆ランド」への楽しみがさらに膨らむようにしていく。・・・

冒頭の部分に、２～３行程度の短い文で、単元全体がわかるように概要を簡潔に述べる。

【例２】
本単元は年間３回店開きする「中学部のお店　ＣＨＵストア」の第1弾として校内での販売会に向けて、４作業班が力を合わせて取り組もうというものである。

中学部のみんなでの取り組みに
中学部では、縦割りの作業班を編成し、作業活動や販売活動に取り組んでいる。このことで、経験のある２，３年生の取り組む姿を見て、作業学習に初めて取り組む１年生も作業に自分から取り組もうとする姿や，先輩として２，３年生が更に自分で作業活動を進めていこうとする姿を期待している。さらに、教師もその輪に積極的に加わり、中学部みんなで「中学部のお店　ＣＨＵストア」の開店に向けて取り組んでいくようにする。

いろいろな製品をたくさん
作業班編制を新しくしたことに伴い，作業種目も再検討をし、縫製、調理、手工芸、紙工芸の４作業種を基本としながら、生徒一人一人がそのもてる力を精一杯発揮できるように、製品の種類も幅広くしたり，取り組みの様子に応じて作業行程を検討したり、補助具等を活用していく。
「ぬいぬいソーイング班」では・・・
「もりもりクッキング班」では・・・
「キラキラハンドクラフト班」では・・・
「ペタペタペーパークラフト班」では・・・

３～４段落構成でまとめ、段落ごとに小見出しをつける。

自分たちの手でいろいろな取り組みを
単元の始めには、全体オリエンテーションを開き、・・・各作業班の班長からなる班長会を定期的に行う。・・・壁新聞「ＣＨＵストアたより」を発行する。単元後半には、・・・頒布への期待をもって開店当日を迎えるようにしていく。そして、ＣＨＵストア終了後には、「振り返りの会」を企画し、各作業班の活動報告をしながら、互いに頑張ったことを確認し合い、成功感いっぱいで単元を締めくくることができるようにしていく。さらに、学部通信「ＣＨＵストアたより」を定期的に・・・

教師から児童生徒へのねがいとして、「～してほしい」という表現で。

３　単元のねがい

【例１】
「キラキラ☆ランド」のいろいろな遊具に自分から向かい、みんなで毎日思いっきり楽しく遊んでほしい。

【例２】
・製品作りに、めいっぱい取り組んでほしい。
・販売会当日は、仲間と共に存分に活動し、満足感を分かち合ってほしい。

２～３つの観点で、単元全体を通して全体に期待する姿を書く。

学習支援案の様式（２）

単元のねがいに沿って項目を起こし、ねがいを達成するための具体的な計画を書く。

単元に関連性のない活動のある日や項目は省く

児童生徒にとって見通しを持ちやすい日程となっているかを確認する。

４　単元計画

○単元を立てるに当たって

【例１】
（１）それぞれが思いっきり遊ぶために
・遊びを盛り上げるために、教師も同じ宇宙服を着て、歓声をあげながら、一緒に思いっきり遊ぶ。
・楽しみがさらに膨らむように、児童自ら図工の時間に宇宙船に好きな柄を付けたり、部屋に飾る飾りを作ったりする。
・雰囲気を盛り上げ、楽しく遊べるように、宇宙船に乗って移動するときや、遊び場に、宇宙の雰囲気いっぱいのＢＧＭを流す。
～以下省略～

（２）みんなで思いっきり遊ぶために
・子どもどうしが自然にかかわって遊べるように、「キラキラ滑り台」「キラキラロケット」など、大きめの遊具を設置する。
・みんなが自然と集まって遊べるように、場の配置による動線の工夫をする。
・「キラキラ☆ランド」での遊びがより楽しいものとなるように、単元の後半やようごフェスタ当日は、家族や他学年の子どもたちと一緒に遊ぶよう　にする。

【例２】
（１）すすんで作業に取り組めるように
・自分からすすんで取り組めるように、生徒の取り組みの様子に合わせて工程を細分化したり、別の工程を取り入れたりするなど、作業工程の分析を　綿密に行う。
～以下省略～

（２）めいっぱい作業に取り組めるように
・各班ともに勢いのある作業となるように、３年生がリーダーを務めて牽引役となるようにする。
～以下省略～

（３）作業をやり遂げ、成就感を分かち合えるように
・自分たちの作った物を、丁寧にラッピングしたり、一つ一つに値札をつけたり、箱に大切にしまったりしていくことで、販売活動への期待感をもて　るようにする。
～以下省略～

意図とそのための手だてが明確となるように、「（児童生徒が）～できるように、（教師が）～する。」と記す。

「本時」がどこに当たるかを明示する。

○日程計画

【例１】

月/日	曜	主な活動	関連する活動
10/30	月	「キラキラ☆ランド」で遊ぶ	
31	火		
11/1	水	「キラキラ滑り台」	図工（宇宙船作り）
2	木	「キラキラプール」	
6	月	「キラキラジャンプ」	
7	火	「キラキラロケット」	
8	水	「キラキラトンネル」	図工（部屋飾り作り）
9	木	「でこぼこ道」	
10	金		
13	月	本時	
14	火		

教科等で行う、テーマに関連する活動を書く。

枠や矢印を使って、単元の進め方を分かりやすく示す。

【例２】

月/日	曜	主な活動	関連する活動
6/6	水	学部オリエンテーション	
8/1	金	作業班別オリエンテーション	
1	月	各作業班準備、製品作り	
12	火		
13	水		
14	木		班長会
29	金		
2	月		
3	火	本時	
4	水	お店作り	
5	木		班長会
6	金	ＣＨＵストア	
9	月		
10	火		班長会

学習支援案の様式（３）

単元でのそれまでの流れや位置づけなどを踏まえ、本時での取り組みを意識して書く。

この時間でどのように活動してほしいか、一人一人の姿を踏まえながら、全体的に期待していることを書く。

５　本時
（１）本時のねがい

【例１】
「キラキラ☆ランド」のお気に入りの遊具で、時間いっぱい、思いっきり楽しく遊んでほしい。

【例２】
○ 一人一人が担当の作業にめいっぱい取り組んでほしい。
○自分から準備をしてほしい。

遊具や補助具の絵や写真を入れてもよい。

（２）展開　　教師の名前（Ｔ１）　教師の名前（Ｔ２）　教師の名前（Ｔ３）

【例１】

時配	活　動	活動における支援	教材教具等
１５	○キラキラステーションに到着。 ・宇宙服に着替える。 ・宇宙船に乗り込み、宇宙への旅として、校内を巡る。	・一緒に宇宙服に着替えながら、「今日もキラキラ☆ランドに行って遊ぼうね」などのことばかけをすることで、期待感を膨らませることができるようにする。 ・ＢＧＭを流し、より楽しい雰囲気とする。 ・「ここでは、劇の練習をしてるね」などのことばかけをして、ようごフェスタに向けての雰囲気を感じ取りながら、みんなで楽しく校内を巡ることができるようにする。	衣装 宇宙船 ラジカセ
６０	○「キラキラ☆ランド」で遊ぶ。	・児童が着替え、宇宙への旅に行っている最中に、教室を「キラキラ☆ランド」に作り替え、到着したらすぐに遊びを始められるようにしておく。（Ｔ３、Ｔ４、Ｔ５） ・一緒に遊びながら、安全に留意しつつ、一人一人が自分から思いっきり楽しく遊べるようにする。 ・宇宙の雰囲気いっぱいのＢＧＭを流し、より楽しい雰囲気とする。	ラジカセ

児童生徒及び教師が、本時に行う活動内容を、当日の流れに合わせて書く。

【例２】

時配	活　動	活動における支援	教材教具等
５０	○作業の準備をする。 ・ミシン、アイロン、裁縫道具の準備をそれぞれが行う。	・授業の前に道具の点検を行う。 ・作業が途切れないように十分な作業量を用意する。 ・一人で準備や片づけができるように、道具や材料の保管場所を固定する。 ・雰囲気を盛り上げるように、リーダーが、全員が座ったところで、「ＣＨＵストアに向けてがんばりましょう」が声をかけたときは、「はーい」と応える。	
	○巾着袋を作製する。 ＜ミシン＞ ・わきを縫う　Ａ ・返し口を縫う　Ｔ１ ・ひも通しを縫う　Ｂ	・布送りがまっすぐにできるように、しるしは、濃い色にする。 ・次の工程に製品が流れていくように、これから縫う物と縫い終わった物とを入れる色違いのトレーを用意する。	・ミシン、糸切りばさみ、ゴミ入れ、製品を入れるケース

できるだけ活動と行をそろえて書き込む。

遊具名や補助具名を文中で示す時は、「」をつける。

活動により良く取り組めるように、教師があらかじめ用意しておくことや、一緒に活動しながら行うことなどを書く。

主語は教師で統一する

学習支援案の様式（４）

この単元と関連するこれまでの活動の様子や得意なことややりたいことなどを書く。

本単元のねがいをさらに具体化したものを書く。語尾は「～してほしい」

ねがいを達成するための手だてを、具体的に書く。「～できるように、・・・する」（２項目以上）

6　児童（生徒）への単元におけるねがいと本時のねがい・手だて及び評価

【例１】

児童	児童の様子	本単元のねがい	本時のねがい	手だて	
Ｔ・Ｋ １年２組	・怖がりな面はあるが、坂滑りでは、繰り返し　遊ぶ中で、自分から滑　って遊ぼうとする姿が　見られるようになった。 ・教師の手を引いたり、声をかけたりし、一緒　に遊ぼうと誘ってくる　ことが多い。	・繰り返し遊んでいくことで、いろいろな遊具に自分から挑戦していってほしい。 ・教師や友だちとかかわって、楽しく遊んでほしい。	・教師や友だちと一緒に、「キラキラ滑り台」を何　度も滑ったり、滑り方を　変えたりして、遊んでほ　しい。	・教師も一緒に滑ったり、友だちと一緒に滑ってみようと誘ったりしていく。 ・腹這いや仰向けなどの滑り方も提案していく。	

「児童生徒の様子→本単元のねがい→本時のねがい→手だて」に一貫性をもち、より具体的になるように書く。（逆にたどって一貫性を確認するとよい）

【例２】

生徒	生徒の様子	本単元のねがい	本時のねがい	手だて	評価
Ａ・Ｈ ミシン ３　年	・印に沿ってまっすぐにミシンをかけることができる。 ・自分の使うミシンを自分の机まで運ぶことができる。	・脇縫いの工程だけを担当することで、ペースよく縫っ　てほしい。 ・自分の使う道具がどれかわかるようにすることで、準　備をすすんで行ってほしい。 ・ＣＨＵストアで仲間と一緒に販売することで、満足感　を感じてほしい。	・脇縫いを８枚以上縫ってほしい。 ・自分でミシンや握りばさみなどの道具を準備してほしい。	・仕事が途切れないように、脇縫いをする布を、１０枚は用意しておく。 ・印を濃い色で付けておく。 ・ミシンには番号をつけ、握りばさみやくず入れをトレイにひとまとめにして収納しておく。	

教師の手だて等が有効であったかを評価する。

全員分を記す

7　場の配置と設定　【例１】　【例２】

本時の授業での児童生徒の位置、活動場所を入れる。

活動場所の配置図や全体図を書く。

作業工程や遊びの流れが分かるようにする。

遊具はその実寸を入れる。写真を入れてもよい。

動線を矢印などで示し、実際の動きを検討する。（混乱や滞りが生じないかをシミュレーションする）

（様式特３－６）

令和　　年度

教育臨床実習Ａ　報告

（実習校　　）

指導者

学校担当者　氏名	
大学指導教員氏名	

実習者　学籍番号（　　）

氏名　　（　　）

令和　年度「教育臨床実習Ａ」のポートフォリオ・ファイルです。
回覧及ご指導をお願いします。

	校長	教頭	教務主任	学校担当者
印				

この実習報告のポートフォリオ・ファイルには、実習計画、毎回の記録、中間報告、ケース会議、最終報告を綴じて提出する。
このファイルは２冊用意し、実習校へ１部、大学指導教員に１部提出する。

（様式特３－７）

令和　　年度

授業開発臨床実習Ａ　報告

（実習校　　）

指導者

学校担当者　氏名	
大学指導教員氏名	

実習者　学籍番号（　　）

氏名　　（　　）

令和　年度「授業開発臨床実習Ａ」のポートフォリオ・ファイルです。
回覧及ご指導をお願いします。

	校長	教頭	教務主任	学校担当者
印				

この実習報告のポートフォリオ・ファイルには、実習計画、毎回の記録、中間報告、ケース会議、最終報告を綴じて提出する。
このファイルは２冊用意し、実習校へ１部、大学指導教員に１部提出する。

（様式特３－８）

【教育臨床実習Ｂ】実習計画

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習項目	実習内容	単位時間	時期
・オリエンテーション	・実習概要の理解 ・実習計画の作成 ・実習校における打ち合わせ		
・教育支援実践の分析	①個別の指導計画等の背景 ②教育的ニーズの検討		
・教育支援実践の分析	③アセスメントと分析 ④支援目標の検討		
・教育支援実践の分析	⑤支援方法の検討 ⑥評価方法の検討		
・教育支援実践の分析	⑦支援体制の検討 ⑧関係者との連携		
・教育支援実践の改善	①改善のための記録、分析方法		
・教育支援実践の改善	②評価に基づく実践の改善		
・教育支援実践の改善	③関係者との連携		
・ケース会議	①ケース会議資料の作成 ・視点を明らかにした資料作成		
・ケース会議	②大学における資料の検討 ・根拠に基づく説明		
・ケース会議	③実習校におけるケース会議 ・ファシリテーション		
・教育支援実践の開発	①教育支援の計画		
・教育支援実践の開発	②教育支援の実践		
・教育支援実践の開発	③関係者との連携		

（様式特３－９）

【教育臨床実習Ｂ】実習記録

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

第　　回	実習者：	月　　日　～　月　　日
実習課題	(1) 教育支援実践の分析 ②教育的ニーズの検討	

１）　資料：実習課題を検討した資料を記入する。

・４月に作成した個別の指導計画
・前年度の個別の指導計画

２）分析：実習課題の観点から、成果と課題を分析する。

・前年度と今年度の個別の指導計画を比較する。
・今年度は、学校生活を中心に教育的ニーズを把握し、家庭生活や保護者の要望は反映していない。
・家庭生活における教育的ニーズを検討する必要があるかどうかを見直す必要がある。

３）考察：上記を踏まえて、実習課題に関する改善内容を明らかにする。

・現在の教育的ニーズは、学校生活を中心としたもので、家庭生活や保護者の要望は検討していない。
・そこで、５月の保護者面談において要望を聞き取る。
・それによって、家庭生活につながる学校での支援が明らかになり、児童生徒の成長につながると考えられる。

【大学指導教員コメント】

（様式特３－10）

【教育臨床実習Ｂ】中間報告書

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習課題に照らして自己の教育実践を分析し、学んだことを明らかにする。

（１）「教育支援実践の分析」について

①個別の指導計画等の背景：なぜ、個別の指導計画、個別の教育支援計画が必要なのか。
②教育的ニーズの検討：何を根拠として、教育的ニーズを把握するか。
③アセスメントと分析：どのような方法により、どのような情報が得られるか。
④支援目標の検討：何を根拠として、長期目標と短期目標を設定するか。
⑤支援方法の検討：何を根拠として、環境やかかわりを計画するか。
⑥評価方法の検討：どのような記録から、何が把握できるか。
⑦支援体制の検討：何を根拠として、支援体制を考えるか。
⑧関係者との連携：何を根拠として、協力関係を形成するか。

（２）「教育支援実践の改善」について

①改善のための記録、分析方法：どのような記録から、何が把握できたか。
②評価に基づく実践の改善：何を根拠として、何を改善したか。
③関係者との連携：共通理解や対応に、何が有効であり、何が有効でなかったか。

（３）「ケース会議の運営」について

①資料作成：視点を明確にした資料とそうでない資料の違いは何か。
②根拠に基づく説明：根拠に基づく説明をするために準備することは何か。
③ファシリテーション：課題を明確化し、関係者と共有するために準備することは何か。

学校担当者 印	【大学指導教員コメント】

（様式特３－11）

【教育臨床実習Ｂ】最終報告書

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習課題に照らして自己の教育実践を分析し、成果と課題を明らかにする。
上記を踏まえて、教育支援実践を向上させるための開発的内容を提案する。

（１）「教育支援実践の分析」について

（２）「教育支援実践の改善」について

（３）「ケース会議の運営」について

（様式特３－12）

令和　　年度

教育臨床実習Ｂ　報告

（実習校　　）

指導者

学校担当者　氏名	
大学指導教員氏名	

実習者　学籍番号（　　）

氏名　　（　　）

令和　年度「教育臨床実習Ｂ」のポートフォリオ・ファイルです。
回覧及ご指導をお願いします。

	校長	教頭	教務主任	学校担当者
印				

この実習報告のポートフォリオ・ファイルには、実習計画、毎回の記録、中間報告、ケース会議、最終報告を綴じて提出する。
このファイルは２冊用意し、実習校へ１部、大学指導教員に１部提出する。

（様式特３－13）

【授業開発臨床実習Ｂ】実習計画

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習項目	実習内容	単位時間	時期
・オリエンテーション	・実習概要の理解 ・実習計画の作成 ・実習校における打ち合わせ		
・授業実践の分析	①授業実践の向上が求められる背景 ②教育課程と単元計画の整合性		
・授業実践の分析	③児童生徒の状態と題材の整合性 ④授業目標・展開・評価の整合性		
・授業実践の分析	⑤児童生徒の自発的行動を促す環境設定と支援方法 ⑥児童生徒一人一人に応じた支援		
・授業実践の分析	⑦授業と個別の指導計画との整合性 ⑧関係者との連携		
・授業実践の改善	①授業目標・展開・評価の妥当性		
・授業実践の改善	②児童生徒一人一人に応じた支援		
・授業実践の改善	③関係者との連携		
・研究授業	①授業研究資料の作成 ・視点を明らかにした資料作成		
・研究授業	②大学における資料の検討 ・根拠に基づく説明		
・研究授業	③実習校における授業研究 ・課題改善に向けた討論		
・授業実践の改善	①授業実践の計画		
・授業実践の改善	②授業実践		
・授業実践の改善	③授業研究		

（様式特３－14）

【授業開発臨床実習Ｂ】実習記録

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

第　　回	氏名：	月　　日　～　月　　日
実習課題	(1)授業実践の分析 ②教育課程と単元計画	

１）資料：実習課題を検討した資料を記入する。

・教育課程の資料
・年間計画の資料
・週時程の資料
・単元計画の資料

２）分析：実習課題の観点から、成果と課題を分析する。

・教育課程、年間計画、週時程に照らして単元計画の妥当性を検討する。

３）考察：上記を踏まえて、実習課題に関する改善内容を明らかにする。

・現在の単元計画は、
・そこで、・・・のように修正する・
・それによって、・・・が向上すると考えられる。

【大学指導教員コメント】

（様式特３－15）

【授業開発臨床実習Ｂ】中間報告書

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習課題に照らして自己の授業実践を分析し、学んだことを明らかにする。

（１）「授業実践の分析」について

①今日の教育課題：どのような授業実践が求められているか。
②教育課程と単元計画の整合性：教育課程の中で単元計画を考える必要性は何か。
③児童生徒の状態と題材設定：何を根拠として、題材を設定すればよいか。
④授業目標・展開・評価の整合性：何を根拠として、目標・展開・評価の整合性を検討するか。
⑤児童生徒の自発的行動を促す環境設定と支援方法：
　何を根拠として、環境設定や支援方法を考えればよいか。
⑥児童生徒一人一人に応じた支援：何を根拠として、一人一人に応じた支援を考えればよいか。
⑦授業と個別の指導計画との整合性：個別の指導計画をどのように反映すればよいか。
⑧関係者との連携：何を根拠として、関係者に説明すればよいか。

（２）「授業実践の改善」について

①授業目標・展開・評価の妥当性：
　目標に応じた展開ができたか否か。
　目標に応じた展開をするためには何が必要か。
　その評価方法により、児童生徒の学習や変容は把握できるか。
　その評価方法により、教師の支援の適切さは検討できるか。
②児童生徒一人一人に応じた支援
　一人一人に応じた支援が実践できたか否か。
　一人一人に応じた支援を実践するにはどのような準備が必要か。
③関係者との連携
　関係者に授業のねらいや方法を理解してもらえたか。
　関係者の理解してもらうには、どのような説明が有効か。

（３）「授業研究の運営」について

①資料作成：視点を明確にした資料とそうでない資料の違いは何か。
②根拠に基づく説明：根拠に基づく説明をするために準備することは何か。
③開発的討論：開発的内容を見いだすために、どのようなテーマで討論すればよいか。

学校担当者 印	【大学指導教員コメント】

（様式特３－16）

【授業開発臨床実習Ｂ】最終報告書

実習者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**実習校**＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

実習課題に照らして自己の授業実践を分析し、成果と課題を明らかにする。
上記を踏まえて、授業実践を向上させるための開発的内容を提案する。

（１）「授業実践の分析」について

（２）「授業実践の改善」について

（３）「授業研究の運営」について

（様式特３－17）

令和　　年度

授業開発臨床実習Ｂ　報告

（実習校　　）

指導者

学校担当者　氏名	
大学指導教員氏名	

実習者　学籍番号（　　）

氏名　　（　　）

令和　年度「授業開発臨床実習Ｂ」のポートフォリオ・ファイルです。
回覧及ご指導をお願いします。

	校長	教頭	教務主任	学校担当者
印				

この実習報告のポートフォリオ・ファイルには、実習計画、毎回の記録、中間報告、ケース会議、最終報告を綴じて提出する。
このファイルは２冊用意し、実習校へ１部、大学指導教員に１部提出する。

岐阜大学　教職大学院　教育実践開発コース

「学校教育臨床実習」
「特別支援学校臨床実習」
の手引き

令和２年４月発行

編集・発行　　岐阜大学教職大学院